

2018年度三重短期大学年報

三重短期大学評価委員会

目 次

三重短期大学年報刊行にあたって	1
2018年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設授業科目における専兼比率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科研費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7. 社会活動		
表21	公開講座の開設状況	32
8. 大学運営		
1) 施設・設備		
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2) 図書館		
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3) 財務		
表27	歳入・歳出決算表	38
4) 管理運営		
表28	教授会開催状況	39
9. 専任教員の活動実績		
		41

2018年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年ごとに実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。（原則11月～12月に公開）

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきますよう関係各方面にお願いいたします。

2019年12月

三重短期大学評価委員会

2018年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。

2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。
- ・専任教員は、助教以上が法経科13名、生活科学科16名の計29名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均24名である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が4名、45歳以下が12名、55歳以下が6名、65歳以下が7名であり、前年度に比べて、35歳以下の若手教員の割合が増加している。
- ・教員の職階構成は、教授11名、准教授13名、講師2名、助教3名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が15名、非常勤職員等が14名となっており、常勤職員と非常勤職員等は昨年度より各1名ずつ増加している。

3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、生活科学専攻では42%とやや低いものの、法経科第1部が47%、法経科第2部が52%、食物栄養学専攻が54%あり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、法経科第1部が約4%減少している。
- ・在籍学生数は、法経科第1部、食物栄養学専攻、生活科学専攻ではいずれも定員を充足している。法経科第2部は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、昨年度の88.1%から91.1%へと若干増加しており、特に、法経科第2部の合格率が68.4%から81.7%へと、約13%増加している。
- ・留年率は、7.1%であり、昨年度とほぼ変わらない。
- ・退学・休学状況では、退学率が昨年度の2.3%から2.8%へと若干増加している。また、休学者数は3名おり昨年度と同じである。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得者が昨年度の48名から42名へと減少したが、合格率は昨年度とほぼ変わらない。管理栄養士免許取得者が昨年度の14名から6名へと半減している。教員免許取得者は、栄養教諭二種免許取得者が3名いるが、昨年度より1名減少した（中学社会科二種・中学家庭科二種は廃止）。なお、栄養教諭課程は2018年度入学生から廃止された。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、昨年度より法経科第2部は増加したものの、法経科第1部は変わらず、食物栄養学専攻と生活科学専攻では減少している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第1部・第2部では昨年度より若干減少したが、食物栄養学専攻と生活科学専攻では5名増加している。

4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第2部を除いて100%を越えている。法経科第2部は、近年50%程度で推移してきたが、2019年度入試（2018年度実施）では65%に増加している。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると過去、増減を繰り返してきたが、2019年度入試は1.95倍となり、前年の1.83倍からさらに増加している。しかし、この増加は法経科第1部・第2部によるものであり、生活科学科の志願者数は昨年度より約70名減少している。
- ・入試種別の入学者構成は、一般入試が35.6%（昨年度41.5%）、推薦入試が33.4%（32.3%）、センター利用入試が28.8%（20.8%）、社会人特別選抜が1.1%（3.5%）、関連分野特別選抜が1.1%（1.9%）となっており、センター利用入試の割合が昨年度より8%増加している。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室の利用状況では、昨年度まで臨床心理士によるカウンセリングが行われてきたが、2018年度は、臨床心理士の他にスクールカウンセラーによるカウンセリングが行われている。これらによる年間開室日数は計43日あり、相談件数は49件で、昨年度より5件減少している。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生707名の37.5%（昨年度31.5%）に当たる265名が受給しており、昨年度より約50名増加している。一人当たりの平均受給額は年間約66万円であり、ほとんどが日本学生支援機構奨学金の貸与である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、2018年度前・後期合計で117件の申請に対して、全額免除62件、半額免除45件、合計107件が認定された。希望者数は過去数年間減少傾向にあったが、昨年度の41件から大幅に増加している。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,567万円であり、昨年度より約280万円増加している。特に、生活科学科の科学研究費補助金が昨年度より420万円増加している。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費（経常研究費）は法経科で36.5万円、生活科学科で31.5万円である。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分（学内経常研究費）の割合は、法経科が60%、生活科学科が23%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2018年度は2件申請したが、いずれも不採択であった。
- ・教員研究室は、すべて個室が確保されている。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で24.1㎡、生活科学科で27.7㎡である。
- ・助教を除く専任教員の一週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均9.7授業時間であり、生活科学科では平均9.4授業時間である。

7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座としては、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講義がある。2018年度は合計37講座が開講され、2,148名の受講者があった。開講数は昨年度と同数であったが、参加者数は約800名も大幅に増加した。また、1講座当たりの平均受講者数も、昨年度の38名から48名へと10名増加した。

8. 大学運営

- ・校地・校舎、講義室・演習室等の面積の増減はない。講義室の学生1人当たりの面積は1.59㎡であり、昨年度よりわずかに減少した。
- ・図書館の収蔵冊数は99,523冊で、2018年度中に2,075冊増加した。また、図書館の利用者数は3,163名、貸出冊数は6,141冊で、利用者数および貸出冊数ともに昨年度より増加している。
- ・大学財政についてみると、歳入合計は5億2,889万円で、そのうち授業料・入学金が2億7,846万円、一般財源が2億2,824万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億712万円、大学管理運営事業費9,000万円、図書館管理運営事業1,246万円、教育研究関係事業費1,170万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて20回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究活動・教育活動・社会的活動の状況を掲載した。

1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

(1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

1) 教育研究の理念

- ・真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

- ・優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

(2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

(3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成

文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。

- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成

総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。

- ・地域社会を主体的に担う市民の育成

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成

グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

(4)学科・専攻の目的

法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

生活科学科

生活者の視点から生活環境の改善や健康、福祉に対する深い造詣をもち、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(5)学科・専攻の教育目標

法経科第1部

- ・法律・行政・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

生活科学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻生活福祉・心理コース

- ・社会福祉学や心理学を中心に「理論」と「実践」を学び、現場で生きる知識と技術を備えた人材を育成する。
- ・学生の持つ個性や能力を最大限に引き出し、豊かな人間関係を築くことができる人材を育成する。
- ・人々や地域が抱える様々な課題を広い視野で総合的に考察・分析した上で、地域における生活者の一員として主体的に行動できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻居住環境コース

- ・住まいやまちの環境を快適にする力を育成する。
- ・環境問題を認識し、環境共生のために住まいとまちの持ち味を生かす力を育成する。
- ・住まい・まちと福祉をつなぐ力を育成する。
- ・住まいとまちをつくる専門的な力を育成する。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<昭和44年4月>	法律コース<平成19年4月>
		第2部<昭和27年4月>	経商コース<平成19年4月>
	生活科学科	食物栄養学専攻<昭和44年4月>	
		生活科学専攻<平成3年4月>	生活福祉・心理コース<平成19年4月> 居住環境コース<平成19年4月>

表2 全学の教員組織 (2018年度)

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	5	6	2		13		3	30.08	4	3	1		8	48
	第2部							7							
生活科学科	食物栄養学専攻	2	2		3	7		4	15.00	1				1	46
	生活科学専攻	4	5			9		4	23.44	4	2			6	58
合 計		11	13	2	3	29		18		9	5	1		15	176
短期大学全体の入学定員 に応じ定める専任教員数		/	/	/	/	/	/	5	/	/	/	/	/	/	/

- [注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。
 3 2018年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2018年度)
法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期	
教授	タケイシ ヨシオ 立石 芳夫	男	1999/10/1	2009/4/1	法経科 法律 コース	行政学		4.0						0.0	4.0	立命館大学 大学院法学研究 科 法学修士
						行政学(法2)	4.0						4.0	0.0		
						地方政治論	4.0						4.0	0.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						法学入門	0.3						0.3	0.0		
計	8.3	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0	10.3	6.0								
教授	ムライ ヨシコ 村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語I	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学 大学院文学研究科 文学博士	
						英語I(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0		
						英語講読	2.0	2.0					2.0	2.0		
						英語講読(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0		
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0		
計	10.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	8.0								
教授	クサモト タカシ 楠本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科 法律 コース	刑法	4.0						4.0	0.0	中央大学 大学院法学研究科 法学修士	
						刑法(法2)	4.0						4.0	0.0		
						刑事政策		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						法学入門	0.3						0.3	0.0		
計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0								
教授	イシハラ ヨウスケ 石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学 大学院経済学研究 科 経済学修士	
						金融論(法2)	4.0						4.0	0.0		
						国際経済論	2.0						2.0	0.0		
						国際経済論(法2)		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						経済学入門	0.3						0.3	0.0		
						農林体験セミナー	2.0						2.0	0.0		
						食と観光実践	2.0						2.0	0.0		
						次世代産業実践	2.0						2.0	0.0		
計	12.3	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	16.3	10.0								
教授	フジエダ リツコ 藤枝 律子	女	2010/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	行政法	4.0						4.0	0.0	名古屋大学 大学院法学研究 科 法学修士	
						行政法(法2)	4.0						4.0	0.0		
						教育の基礎理論	1.0						1.0	0.0		
						教育の基礎理論(法2)	1.0						1.0	0.0		
						演習			2.0				2.0	0.0		
						社会科学演習			2.0				2.0	0.0		
						法学入門	0.3						0.3	0.0		
計	10.3	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0								
准教授	スギヤマ ナオシ 杉山 直	男	2013/4/1	2013/4/1	法経科 経商 コース	経営学	4.0						4.0	0.0	中京大学 大学院商学研究科 経営学博士	
						経営学(法2)		4.0					0.0	4.0		
						人的資源管理論	2.0						2.0	0.0		
						人的資源管理論(法2)		2.0					0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
経済学入門	0.3						0.3	0.0								
計	6.3	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.3	10.0								
准教授	タナカ サトミ 田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	会計学							0.0	0.0	休職中 明治大学 大学院商学研究科 商学博士	
						会計学(法2)							0.0	0.0		
						税務会計論							0.0	0.0		
						上級簿記(経営特科講義)							0.0	0.0		
						演習							0.0	0.0		
社会科学演習							0.0	0.0								
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

准教授	オオハツ 大畑 智史	男	2016/4/1	2016/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0					0.0	4.0	東北大学大学 院経済学研究 科 経済学修士
						財政学(法2)		4.0				0.0	4.0		
						地方財政論	2.0					2.0	0.0		
						地方財政論(法2)	2.0					2.0	0.0		
						経済学入門	0.8					0.8	0.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
計	4.8	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.8	12.0							
准教授	カワサキ 川崎 航史郎	男	2016/10/1	2016/10/1	法経科 法律 コース	労働法	4.0						4.0	0.0	龍谷大学大学 院法学研究科 法学博士
						労働法(法2)		4.0				0.0	4.0		
						社会保障法	2.0					2.0	0.0		
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						法学入門	0.6					0.6	0.0		
計	6.6	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	10.6	10.0							
准教授	イマキト 今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	文学I	2.0						2.0	0.0	関西大学大学 院文学研究科 文学博士
						文学I(法2)	2.0					2.0	0.0		
						文学II		2.0				0.0	2.0		
						文学II(法2)		2.0				0.0	2.0		
						独語I	2.0	2.0				2.0	2.0		
						独語I(法2)	2.0	2.0				2.0	2.0		
						独語II	2.0	2.0				2.0	2.0		
計	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0							
准教授	タノメ 田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0						4.0	0.0	京都大学大学 院経済学研究 科 経済学博士
						経済原論(法2)	4.0					4.0	0.0		
						経済学史		2.0				0.0	2.0		
						統計学(法2)		2.0				0.0	2.0		
						経済学入門	0.3					0.3	0.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
計	8.3	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.3	8.0							
講師	シノ 鷲尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科 経商 コース	マーケティング論	4.0						4.0	0.0	高千穂大学大 学院経営学研 究科 経営学博士
						マーケティング論(法2)		4.0				0.0	4.0		
						日本経済論		2.0				0.0	2.0		
						日本経済論(法2)		2.0				0.0	2.0		
						経済学入門	0.3					0.3	0.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
計	4.3	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.3	12.0							
講師	カワカミ 川上 生馬	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	民法I	4.0						4.0	0.0	関西学院大学 大学院法学研 究科 法学修士
						民法I(法2)	4.0					4.0	0.0		
						民法II		2.0				0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0		
						法学入門	0.3					0.3	0.0		
計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0							

生活科学科

職名	氏名	性別	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属	授 業 科 目								最終学歴及び 学位称号	
						科目名	毎週授業時間数				計				
							講義	演習	実験・実習・実技	計	前期	後期	前期		後期
教授	トウフクジ 一郎	男	1982/4/1	1990/4/1	生活福祉・心理コース	発達と学習		2.0					0.0	2.0	慶応義塾大学 大学院社会科学科 文学修士
						心理学概論	2.0						2.0	0.0	
						心理学基礎実験					4.0		4.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						栄養教育実習 事前事後の指導					1.0	1.0	1.0	1.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	2.1	2.0	2.0	4.0	5.0	1.0	9.1	7.0	
						環境論	2.0						2.0	0.0	
						環境論(法2)	2.0						2.0	0.0	
居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0							
環境政策論		2.0					0.0	2.0							
環境政策論(法2)		2.0					0.0	2.0							
環境倫理学		2.0					0.0	2.0							
環境共生論	2.0						2.0	0.0							
生活経営	2.0						2.0	0.0							
地域政策論(法2)		2.0					0.0	2.0							
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	8.1	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.1	12.0							
教授	ミナミ 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	社会福祉論・社会福祉論I	2.0						2.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						社会福祉論I・社会福祉論II	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉論II		2.0					0.0	2.0	
						地域福祉論II		2.0					0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習I	2.0					2.0	0.0		
						社会福祉援助技術現場実習II						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習III						1.0	0.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						生活科学概論	0.3						0.3	0.0	
計	6.3	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	9.3	9.0							
居住福祉論		2.0					0.0	2.0							
居住計画論	2.0						2.0	0.0							
住生活論		2.0					0.0	2.0							
住生活設計I						4.0	0.0	4.0							
住生活設計II					4.0		4.0	0.0							
居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0							
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	2.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.1	12.0							
教授	キノシタ 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	生化学	2.0						2.0	0.0	三重大学大学院 工学研究科 工学博士
						生化学実験					3.0		3.0	0.0	
						ライフステージ栄養学	2.0						2.0	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.3					0.0	0.3	
						食生活論		2.0					0.0	2.0	
						栄養学		2.0					0.0	2.0	
						栄養学実験						3.0	0.0	3.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	4.1	4.3	0.0	0.0	3.0	3.0	7.1	7.3	
						食品学	2.0						2.0	0.0	
食品学実験						3.0	3.0	0.0							
食品衛生学I	2.0						2.0	0.0							
食品衛生学II		2.0					0.0	2.0							
食品の機能		2.0					0.0	2.0							
食品衛生学実験						3.0	0.0	3.0							
管理栄養特殊講義		0.4					0.0	0.4							
特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0							
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	4.1	4.4	4.0	4.0	3.0	3.0	11.1	11.4							
教授	ヤマダ 徳広	男	2015/4/1	2015/4/1	食物栄養学専攻	栄養教育論I	2.0						2.0	0.0	東京農業大学 大学院農学研究科 生物環境調整 学博士
						栄養教育論実習I					3.0		3.0	0.0	
						給食計画実務論実習II					1.0	1.0	1.0	1.0	
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						栄養教育論II		2.0					0.0	2.0	
						栄養教育論実習II						3.0	0.0	3.0	
						栄養教育実習 事前事後の指導					1.0	1.0	1.0	1.0	
						管理栄養特殊講義		0.3					0.0	0.3	
						教職実践演習(栄養)				2.0			0.0	2.0	
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	2.1	2.3	4.0	6.0	6.0	6.0	12.1	14.3							
教授	ハシモト 博行	男	2018/4/1	2018/4/1	食物栄養学専攻	社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	愛媛大学大学院 連合農学研究科 農学博士
						障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術演習I		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習I						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習II						1.0	0.0	1.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習III	2.0						2.0	0.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	9.1	9.0	
准教授	アベ 雅里	女	2006/4/1	2008/4/1	食物栄養学専攻	栄養教育論I	2.0						2.0	0.0	福山女学院大学 大学院生活科学研究科 人間生活科学 博士
						栄養教育論実習I					3.0		3.0	0.0	
						給食計画実務論実習II					1.0	1.0	1.0	1.0	
						校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0	
						特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						栄養教育論II		2.0					0.0	2.0	
						栄養教育論実習II						3.0	0.0	3.0	
						栄養教育実習 事前事後の指導					1.0	1.0	1.0	1.0	
						管理栄養特殊講義		0.3					0.0	0.3	
						教職実践演習(栄養)				2.0			0.0	2.0	
生活科学概論	0.1						0.1	0.0							
計	2.1	2.3	4.0	6.0	6.0	6.0	12.1	14.3							
准教授	キタムラ 香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学修士
						障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術演習I		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習I						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習II						1.0	0.0	1.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習III	2.0						2.0	0.0	
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
						計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	9.1	9.0	

准教授	セダの 清道	フツコ 亜都子	女	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	教育の基礎理論								0.0	0.0	体職中 名古屋大学大学院 教育発達化学 研究科 教育学博士
							教育の基礎理論(法2)								0.0	0.0	
							栄養教育実習 事前事後の指導								0.0	0.0	
							教育実習1・2 事前事後の指導								0.0	0.0	
							福祉心理演習								0.0	0.0	
							福祉心理基礎演習								0.0	0.0	
							教職実践演習(栄養)								0.0	0.0	
							教職実践演習(中学)								0.0	0.0	
							道徳教育の研究								0.0	0.0	
							保育学(実習を含む)								0.0	0.0	
生活科学概論									0.0	0.0							
計									0.0	0.0							
准教授	タクダ 武田	イフカス 誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	医療福祉論	2.0							2.0	0.0	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 医科学専攻 医学修士
							社会福祉援助技術論 I		4.0						0.0	4.0	
							社会福祉援助技術総論	4.0							4.0	0.0	
							福祉心理基礎演習				2.0				0.0	2.0	
							福祉心理演習			2.0	2.0				2.0	2.0	
							社会福祉援助技術現場実習 I						1.0		0.0	1.0	
							社会福祉援助技術現場実習 II						1.0		1.0	0.0	
							生活科学概論	0.1							0.1	0.0	
							計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0		9.1	9.0	
							准教授	オノデラ 小野寺	カズシゲ 一成	男	2014/4/1	2014/4/1	居住環境コース	都市計画論		2.0	
地域政策論	2.0														2.0	0.0	
住環境計画	2.0														2.0	0.0	
地域環境学		2.0													0.0	2.0	
自治体行政特論	2.0														2.0	0.0	
居住環境特別演習			4.0	4.0											4.0	4.0	
まちづくり設計 I					2.0										2.0	0.0	
まちづくり設計 II						2.0									0.0	2.0	
生活科学概論	0.1														0.1	0.0	
計	6.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0									12.1	10.0	
准教授	コマダ 駒田	アイ 亜衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄養専攻	給食計画実務論		2.0						0.0	2.0	青森県立保健 大学大学院健康 科学研究科 健康科学博士 医学博士
							調理学	2.0							2.0	0.0	
							給食計画実務論実習 I					3.0			3.0	0.0	
							給食計画実務論実習 II					1.0	1.0		1.0	1.0	
							校外実習事前事後指導					1.0	1.0		1.0	1.0	
							調理学実習 II (調理学実習 I)						3.0		0.0	3.0	
							管理栄養特殊講義 特別演習		0.3						0.0	0.3	
							特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
							生活科学概論	0.1							0.1	0.0	
							計	2.1	2.3	4.0	4.0	5.0	5.0		11.1	11.3	
准教授	シホウ 笠	コウイチロウ 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0							2.0	0.0	名古屋大学大学院 情報科学研究科 研究科 情報科学博士
							情報と科学		2.0						0.0	2.0	
							情報と科学(法2)		2.0						0.0	2.0	
							数理科学	2.0							2.0	0.0	
							情報処理実習 I							4.0	0.0	4.0	
							情報処理実習 I(法2)						2.0		2.0	0.0	
							居住環境特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
							生活科学概論	0.2							0.2	0.0	
							計	4.2	4.0	4.0	4.0	2.0	4.0		10.2	12.0	
							助教	イイダ 飯田	ツキミ 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養専攻	管理栄養特殊講義		0.2	
生活科学概論	0.1														0.1	0.0	
計	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0									0.1	0.2	
助教	スギノ 杉野	カニ 香江	女	2017/4/1	2017/4/1	食物栄養専攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学研究科 医療栄養学専攻 修士
							管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
							生活科学概論	0.1							0.1	0.0	
計	0.1	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0		4.1	4.2								
助教	アハツ 相川	ユウキ 悠貴	男	2017/10/1	2017/10/1	食物栄養専攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	筑波大学大学院 人間総合科学 研究科 体育科学博士
							管理栄養特殊講義		0.3						0.0	0.3	
							生活科学概論	0.1							0.1	0.0	
計	0.1	0.3	4.0	4.0	0.0	0.0		4.1	4.3								

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。
2 2018年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成（2018年度）

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
法経科	教授	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
	准教授	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計		0 0.0%	4 30.8%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	3 23.1%	3 23.1%	0 0.0%	13 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
生活科学科	教授	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	准教授	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	3 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
合計		1 6.3%	2 12.5%	3 18.8%	1 6.3%	4 25.0%	4 25.0%	0 0.0%	1 6.3%	16 100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
全学科	教授	1 9.1%	4 36.4%	2 18.2%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
	准教授	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	4 30.8%	5 38.5%	2 15.4%	0 0.0%	13 100.0%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
合計		1 3.4%	6 20.7%	3 10.3%	3 10.3%	5 17.2%	7 24.1%	3 10.3%	1 3.4%	29 100.0%
定年 65歳										

〔注〕 2018年5月1日時点の状況を示す。

表5 事務組織 (2018年度)

	部署名	担当名	専任職員		兼務職員	常勤嘱託職員	臨時職員	その他	計
				うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	6	2(1)	1		2		8
	大学総務課	総務担当	5	2			9	1	15
		地域連携センター			3(1)				
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
合計		15	7(2)	4(1)	0	13	1	29	

[注] 1 () 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専兼比率

[2016年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	27.5	27.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.89	51.75
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	19.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	29.17	40.13	38.39
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	15	15
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	55.88	57.14	
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	13.5	15
兼任担当科目数 (B)	2.5		18.5	21		
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	4	16	20
			兼任担当科目数 (B)	3	20	23
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	57.14	44.44	46.51
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43

[2017年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	28.5	28.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.00	50.86
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	20.16	24.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	29.17	37.00	35.76
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	18	19
			兼任担当科目数 (B)	0	19	19
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.65	50.00	
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	12.5	14
兼任担当科目数 (B)	2.5		19.5	22		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	39.06	38.89			
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5	26	31
			兼任担当科目数 (B)	2	26	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	71.43	50.00	52.54
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	37.00	36.73
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76	
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
兼任担当科目数 (B)	3.25		20.16	23.41		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	37.00	36.73			

[2018年度]

学 科 ・ 部 ・ 専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.83	25.5	26.33
			兼任担当科目数 (B)	0.17	29.5	29.67
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	83.00	46.36	47.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.75	13.75	16.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	45.83	40.44	41.25
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.89	18	18.89
			兼任担当科目数 (B)	0.11	17	17.11
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	89.00	51.43	52.47
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	14.5	16
兼任担当科目数 (B)	2.5	19.5	22			
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	42.65	42.11			
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5	28	33
			兼任担当科目数 (B)	2	26	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	71.43	51.85	54.10
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	33	35
			兼任担当科目数 (B)	0	48	48
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	40.74	42.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	13.75	15.5
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.25	23.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.44	39.74

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必須科目と選択必須科目をあわせたものである。
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2016年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	210	1.05	101	109	5	4.59	
	第2部	150	300	170	0.57	87	83	18	21.69	
計		250	500	380	0.76	188	192	23	11.98	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	51	54	2	3.70	
	生活科学専攻	100	200	208	1.04	111	97	4	4.12	
計		150	300	313	1.04	162	151	6	3.97	
合計		400	800	693	0.87	350	343	29	8.45	

2016年5月1日現在

[2017年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	202	1.01	98	104	6	5.77	
	第2部	150	300	180	0.60	85	95	16	16.84	
計		250	500	382	0.76	183	199	22	11.06	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	99	0.99	48	51	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	207	1.04	95	112	4	3.57	
計		150	300	306	1.02	143	163	4	2.45	
合計		400	800	688	0.86	326	362	26	7.18	

2017年5月1日現在

[2018年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	222	1.11	125	97	4	4.12	
	第2部	150	300	169	0.56	76	93	16	17.20	
計		250	500	391	0.78	201	190	20	10.53	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	57	48	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	211	1.06	113	98	4	4.08	
計		150	300	316	1.05	170	146	4	2.74	
合計		400	800	707	0.88	371	336	24	7.14	

2018年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表 8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2016年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	35	7	20.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士			
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	54	50	92.6
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	2	66.7
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[2017年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	33	14	42.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	6	2	33.3
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	48	88.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[2018年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	31	6	19.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	9	3	33.3
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許			
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	47	42	89.4
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	3	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許			

[注] 1 受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2016年度			2017年度			2018年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	109	100	91.7	104	96	92.3	97	93	95.9
	第2部	83	65	78.3	95	65	68.4	93	76	81.7
計		192	165	85.9	199	161	80.9	190	169	88.9
生活科学科	食物栄養学専攻	54	54	100.0	51	51	100.0	48	46	95.8
	生活科学専攻	97	90	92.8	112	107	95.5	98	91	92.9
計		151	144	95.4	163	158	96.9	146	137	93.8
合計		343	309	90.1	362	319	88.1	336	306	91.1

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路	2016年度	2017年度	2018年度	
法経科	第1部	就職	民間企業	64	59	52
			官公庁	11	8	15
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	15	15	13
			上記以外	2	2	1
			そ の 他	8	12	12
	合 計	100	96	93		
	第2部	就職	民間企業	17	25	28
			官公庁	0	0	4
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	14	13	11
			上記以外	1	2	0
			そ の 他	28	25	33
合 計	60	65	76			
法経科 計			160	161	169	
生活科学科	食物栄養学専攻	就職	民間企業	40	44	36
			官公庁	0	0	1
			上記以外	0	0	0
		(A)	(28)	(35)	(29)	
		進学	他大学編入	4	1	6
			上記以外	4	2	1
	そ の 他		5	4	2	
	合 計	53	51	46		
	生活科学専攻	就職	民間企業	44	73	58
			官公庁	2	0	4
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	21	11	16
			上記以外	2	6	2
			そ の 他	20	17	11
合 計	89	107	91			
生活科学科 計			142	158	137	

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2016年度				2017年度				2018年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	3	3(1)	6	2.9	5	2(2)	7	3.5	1	0(0)	1	0.5
	第2部	4	9(4)	13	7.6	3	5(2)	8	4.4	4	6(3)	10	5.9
	計	7	12(5)	19	5.0	8	7(4)	15	3.9	5	6(3)	11	2.8
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0.0	0	0(0)	0	0.0	1	1(0)	2	1.9
	生活科学専攻	2	4(2)	6	2.9	1	0(0)	1	0.5	5	2(0)	7	3.3
	計	2	4(2)	6	1.9	1	0(0)	1	0.3	6	3(0)	9	2.8
	合 計	9	16(7)	25	3.6	9	7(4)	16	2.3	11	9(3)	20	2.8

【休学者】

学 科	部・専攻	2016年度			2017年度			2018年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	0	0(0)	0	1	0(0)	1	0	0(0)	0
	第2部	0	1(1)	1	0	1(0)	1	2	1(0)	3
	計	0	1(1)	1	1	1(0)	2	2	1(0)	3
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0	0(0)	0	0	0(0)	0
	生活科学専攻	0	0(0)	0	1	0(0)	1	0	0(0)	0
	計	0	0(0)	0	1	0(0)	1	0	0(0)	0
	合 計	0	1(1)	1	2	1(0)	3	2	1(0)	3

[注] 1 () 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。

2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。

3 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	過去5年 間におけるA/B の平均
法 経 科	第 1 部	推薦入試	志願者	71	73	71	67	77	107.6%
			合格者	50	53	54	53	53	
			入学者	50	51	54	53	53	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般入試	志願者	122	99	128	120	140	
			合格者	67	69	70	77	64	
			入学者	43	45	38	62	39	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	49	48	45	40	93	
			合格者	25	24	21	31	32	
			入学者	11	6	6	10	17	
		第1部 計	入学定員	10	10	10	10	10	
			志願者	242	220	244	227	310	
			合格者	142	146	145	161	149	
			入学者(A)	104	102	98	125	109	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
	A/B	1.04	1.02	0.98	1.25	1.09			
	第 2 部	推薦入試	志願者	24	25	25	34	35	54.9%
			合格者	20	23	22	28	30	
			入学者	14	16	11	12	13	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		一般入試	志願者	24	23	38	28	33	
			合格者	20	19	29	23	25	
			入学者	18	19	26	21	24	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	45	49	51	54	90	
			合格者	43	46	50	53	79	
			入学者	25	31	33	31	56	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		社会人特別選抜	志願者	13	23	18	12	5	
			合格者	11	21	17	12	4	
			入学者	11	20	15	12	4	
入学定員			30	30	30	30	30		
第2部 計		志願者	106	120	132	128	163		
		合格者	94	109	118	116	138		
		入学者(A)	68	86	85	76	97		
		入学定員(B)	150	150	150	150	150		
	A/B	0.45	0.57	0.57	0.51	0.65			
学科 合計	志願者	348	340	376	355	473	76.0%		
	合格者	236	255	263	277	287			
	入学者(A)	172	188	183	201	206			
	入学定員(B)	250	250	250	250	250			
	A/B	0.69	0.75	0.73	0.80	0.82			

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

学科	部・専攻	入試の種類		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	過去5年 間における A/B の平均
生活科学科	食物栄養学専攻	推薦入試	志願者	42	52	29	38	39	103.6%
			合格者	21	21	21	23	22	
			入学者	21	21	21	23	22	
			入学定員	20	20	20	20	20	
		一般入試	志願者	79	81	47	75	44	
			合格者	49	42	39	45	39	
			入学者	31	27	21	29	22	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		センター利用入試	志願者	18	11	14	21	32	
			合格者	10	7	13	14	21	
			入学者	2	3	6	5	5	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		専攻計	志願者	139	144	90	134	115	
			合格者	80	70	73	82	82	
	入学者 (A)		54	51	48	57	49		
	入学定員 (B)		50	50	50	50	50		
	A/B		1.08	1.02	0.96	1.14	0.98		
	生活科学専攻	推薦入試	志願者	34	44	26	33	36	106.0%
			合格者	34	42	26	32	35	
			入学者	34	42	26	32	35	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般入試	志願者	56	72	65	73	74	
			合格者	53	54	61	67	69	
			入学者	31	30	36	42	46	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		センター利用入試	志願者	62	125	70	129	78	
			合格者	60	54	68	61	53	
入学者			29	31	27	31	28		
関連分野特別選抜		入学定員	20	20	20	20	20		
		志願者	2	6	6	7	4		
		合格者	2	6	6	7	4		
		入学者	2	6	6	7	4		
社会人特別選抜		入学定員	5	5	5	5	5		
		志願者	2	3	1	1	1		
		合格者	2	2	0	1	1		
		入学者	2	2	0	1	0		
専攻計		入学定員	0	0	0	0	0		
	志願者	156	250	168	243	193			
	合格者	151	158	161	168	162			
	入学者 (A)	98	111	95	113	113			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
学科 合計	A/B	0.98	1.11	0.95	1.13	1.13			
	志願者	295	394	258	377	308	105.2%		
	合格者	231	228	234	250	244			
	入学者 (A)	152	162	143	170	162			
	入学定員 (B)	150	150	150	150	150			
A/B	1.01	1.08	0.95	1.13	1.08				
短期大学合計	志願者	643	734	634	732	781	87.0%		
	合格者	467	483	497	527	531			
	入学者 (A)	324	350	326	371	368			
	入学定員 (B)	400	400	400	400	400			
	A/B	0.81	0.88	0.82	0.93	0.92			

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

表13 学科の入学者の構成 (2019年度)

学 科	部・専 攻		入 学 者 数					備 考
			一般入試	推薦入試	センター 利用入試	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜	
法経科	第1部	入学定員	40	50	10			100
		入学者数	39	53	17			109
		計に対する割合	35.8%	48.6%	15.6%			100.0%
	第2部	入学定員	40	30	50	30		150
		入学者数	24	13	56	4		97
		計に対する割合	24.7%	13.4%	57.7%	4.1%		100.0%
生活科学科	食物栄養学専攻	入学定員	25	20	5			50
		入学者数	22	22	5			49
		計に対する割合	44.9%	44.9%	10.2%			100.0%
	生活科学専攻	入学定員	30	45	20	0	5	100
		入学者数	46	35	28	0	4	113
		計に対する割合	40.7%	31.0%	24.8%	0.0%	3.5%	100.0%
	計	入学定員	55	65	25	0	5	150
		入学者数	68	57	33	0	4	162
		計に対する割合	42.0%	35.2%	20.4%	0.0%	2.5%	100.0%
合 計	入学定員	135	145	85	30	5	400	
	入学者数	131	123	106	4	4	368	
	計に対する割合	35.6%	33.4%	28.8%	1.1%	1.1%	100.0%	

2019年4月5日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	週当たり 開室日数	年間 開室日数	開室時間	年間相談件数			備 考
						2016年度	2017年度	2018年度	
学生相談室	0	1	0.5	17	10:00 ~ 17:00	98	54		臨床心理士
	0	1	0.25	22	16:30 ~ 19:30			33	臨床心理士
	0	1	0.25	21	10:00 ~ 13:00			16	スクール カウンセ ラー

表15 奨学金給付・貸与状況 (2018年度)

(単位:千円)

奨学金の名称	給付・貸与の別	支給対象学生数(A)	在籍学生総数(B)	在籍学生数に対する比率(%) A/B	支給総額(C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	245	707	34.7%	168,716	689
	給付	19		2.7%	5,640	297
周南市奨学金	貸与	1		0.1%	420	420
計		265	707	37.5%	174,776	660

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2016年度		2017年度		2018年度	
学期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
希望者		28	38	12	29	53	64
全額免除	総数	13	17	6	15	26	36
	法経科第1部	3	5	2	4	8	10
	法経科第2部	2	2	0	1	7	8
	生活科学科	8	10	4	2	11	18
	1年次	0	5	0	5	10	16
	2年次	13	12	6	10	16	20
半額免除	総数	13	18	5	9	21	24
	法経科第1部	1	2	1	2	6	8
	法経科第2部	3	3	0	0	2	3
	生活科学科	9	13	4	7	13	13
	1年次	0	5	0	2	10	14
	2年次	13	13	5	7	11	10
不採用		2	3	1	5	6	4

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2016年度			2017年度			2018年度			
		研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの 額	研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの 額	研究費 (円)	研究費総額 に対する割合 (%)	教員1人 あたりの 額	
法経科	学内	研究費総額	5,460,000	100%	390,000	5,650,000	100%	375,000	4,745,000	100%	365,000
		経常研究費	3,430,000	63%	245,000	3,220,000	57%	230,000	2,860,000	60%	220,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	36%	145,000	1,885,000	40%	145,000
		科学研究費補助金				400,000	7%	—			
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金									
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
生活 科学科	学内	研究費総額	8,740,000	100%	340,000	7,200,000	100%	325,000	10,925,000	100%	315,000
		経常研究費	3,120,000	36%	195,000	2,880,000	40%	180,000	2,550,000	23%	170,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,320,000	26%	145,000	2,320,000	32%	145,000	2,175,000	20%	145,000
		科学研究費補助金	2,800,000	32%	—	1,000,000	14%	—	5,200,000	48%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金				1,000,000	14%	—	1,000,000	9%	—
		奨学寄附金	500,000	6%	—						
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2016年度			2017年度			2018年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	1	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
生活科学科	2	1	50.0	2	1	50.0	1	0	0.0
計	3	1	33.3	2	1	50.0	2	0	0.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況 (2018年度)

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率 (%) A/B	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	313.0	19.5	40.0	13	108%	24.1	0
生活科学科	15	1	16	415.1	25.5	32.5	15	100%	27.7	0
計	29	2	31	728.1						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2018年度）

法経科（14人）

教員 区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	16.3 授業時間	12.3 授業時間	12.3 授業時間		1 授業時間:45分
最低	10.0 授業時間	0.0 授業時間	0.0 授業時間		
平均	12.6 授業時間	8.7 授業時間	6.9 授業時間		

生活科学科（15人）

教員 区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	12.1 授業時間	12.1 授業時間		4.1 授業時間	1 授業時間:45分
最低	7.1 授業時間	0.0 授業時間		0.1 授業時間	
平均	9.8 授業時間	9.1 授業時間		2.8 授業時間	

[注] 1 表3で算出した前期の毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
オープンカレッジ	10	10	10	600	600	600	562	405	508	56	41	51
地域連携講座	2	2	2	120	120	120	123	73	77	62	37	39
出前講座	26	25	26	—	—	—	957	864	1563	37	35	52
計	38	37	37	720	720	720	1,642	1,342	2,148	52	38	48

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2018年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要 校地面積 (m ²)	校舎面積(m ²)	設置基準上必要 校舎面積 (m ²)	講義室・演習 室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m ²)
24,871m ²	8,000m ²	6,982m ²	5,700m ²	27	2,530m ²

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、
閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、
廊下、便所等を含む。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2018年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備考
講義室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	707	1.59	
演習室	1	45	生活専用	12	316	0.14	
	5	75	法経専用	60	391	0.19	
	2	160	共用	75	707	0.23	
実験室	2	265	生活専用	100	316	0.84	
			法経専用				
			共用				
実習室	5	700	生活専用	241	316	2.22	
			法経専用				
	1	161	共用	52	707	0.23	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2018年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2016年度	2017年度	2018年度	
三重短期大学附属図書館	99,523	35,000	104種類	16種類	997点	12種類	1,197	4,038	2,075	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2018年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数
		座席数 (A)			
三重短期大学附属図書館	404㎡	76	800	9.5	0

表26 図書館利用状況

図書館の 名称	専任 スタッ フ数	非常勤 スタッ フ数	年間 開館日 数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数		
					2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
三重短期大 学 附属図書館	2 (2)	1.5 (1.5)	227	月～金 8:30～21:00	3,249人	3,000人	3,163人	6,003冊	5,630冊	6,141冊
				土 10:30～19:00 (1月・7月第3土曜日のみ)	教職員 289 学生 2,960	教職員 363 学生 2,637	教職員 398 学生 2,765	教職員 783 学生 5,220	教職員 782 学生 4,848	教職員 1,144 学生 4,997
				日祭日						
				長期休暇中 8:30～17:00						

- [注] 1 () 内数字は司書の資格を有するものの人数を示す。
 2 年間利用者数・貸出冊数には、一般開放による地域住民等は含まない。
 3 非常勤スタッフについては、夜間のみスタッフを0.5と換算する。

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
歳入合計		591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	662,316,000
	授業料	217,005,000	223,595,500	217,225,000	219,779,000	215,652,500	219,095,000	228,912,000
	入学料	50,357,000	52,150,400	55,925,100	53,821,000	47,446,100	59,368,700	53,864,000
	入学検定料	13,562,000	11,634,000	13,348,000	11,513,000	13,203,000	14,138,000	12,660,000
	その他歳入	45,614,437	8,782,133	7,959,822	7,894,488	54,290,884	8,042,978	86,949,000
	一般財源	264,712,053	314,952,463	257,010,175	246,911,425	253,680,542	228,244,355	279,931,000
歳出合計		591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	528,889,033	662,316,000
	①一般職給	432,240,834	435,419,791	433,581,648	418,798,765	411,884,817	407,120,234	434,022,000
	②大学管理運営事業	81,971,330	85,416,966	85,099,170	85,214,101	90,504,584	90,002,209	103,475,000
	③図書館管理運営事業	10,727,457	10,918,489	10,372,135	11,140,792	13,864,018	12,460,385	12,907,000
	④地域貢献推進事業	1,266,010	1,482,830	1,102,125	765,312	1,020,967	780,031	1,039,000
	⑤地域問題研究事業	2,307,389	2,361,986	2,355,300	2,393,756	2,436,758	2,360,368	2,469,000
	⑥教育研究関係事業	12,885,876	13,286,855	12,912,875	12,981,364	11,752,205	11,701,803	12,591,000
	⑦施設維持補修事業	49,851,594	62,227,579	6,044,844	8,624,823	52,809,677	4,464,003	95,813,000

(各年決算資料より作成 2019年度は予算額)

表28 教授会開催状況（2018年度）

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/19	定例	32	2	1 退学願について 2 既修得単位の認定について 3 平成30年度各種委員会委員について 4 法経科専任教員の公募について 5 防犯カメラの管理及び運用に関する規定について 6 教員評価について 7 ■■■■■の休職について 8 その他 ・「■■■■申立て事案に関するハラスメント事実調査結果報告」
5/24	定例	32	2	1 退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 平成30年度開設講座表および時間割の変更について 4 生活科学科専任教員の公募について 5 人事に関する規定の一部改正について
6/21	定例	32	2	1 退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 平成30年度開設講座表および時間割の変更について 4 外部評価委員会の設置について 5 栄養士実習委員会の設置について 6 人事に関する規定の一部改正について
7/19	定例	31	2	1 退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 平成30年度開設講座表および時間割の変更について
8/2	臨時	32	1	1 退学願について 2 平成30年度開設講座表および時間割の変更について 3 法経科専任教員（日本国憲法担当教員）公募（第1次選考）について
8/23	臨時	27	5	1 法経科専任教員（日本国憲法担当教員）公募（第2次選考）について 2 生活科学科非常勤講師の採用について 3 平成30年度開設講座表および時間割の変更について
9/13	臨時	31	3	1 退学願について 2 平成30年度9月卒業判定について 3 平成31年度行事日程について 4 生活科学科専任教員（心理学担当教員）公募（第1次選考）について 5 非常勤講師の採用について 6 平成30年度開設講座表および時間割の変更について
10/18	定例	31	3	1 退学願について 2 生活科学科専任教員（生活科学専攻「心理学」）公募（2次選考）について 3 生活科学科専任教員の公募について 4 三重短期大学学則の一部改正について 5 学長選挙管理委員会について
11/1	臨時	29	5	1 学長選挙日程について（案）について
11/15	定例	31	3	1 休学願・退学願について 2 専任教員の昇任について 3 2019年度開設講座表について 4 在外研修の承認について

11/25	臨時	31	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2019年度開設講座表について 4 法経科第2部の定員削減及び長期履修学生制度について 5 専任教員の昇格に係る資格審査に際して提出すべき業績原本又はその写しに関する申合せについて 6 学長候補者の承認について
12/13	臨時	31	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 非常勤講師の採用について 2 2019年度開設講座表及び時間割について
12/20	定例	30	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 2019年度開設講座表及び時間割について 2 入試改革検討WG報告について 3 専任教員の昇任に係る資格審査に際して提出すべき業績原本又はその写しに関する申合せ（修正案）について 4 学長選挙投票結果について
1/17	定例	28	6	<ul style="list-style-type: none"> 1 非常勤講師の採用について 2 休学願・退学願について 3 2019年度開設講座表及び時間割について 4 2019年度行事日程について 5 GPA制度の導入について 6 単位互換科目について 7 服務について 8 学生部長の改選について 9 附属図書館長及び地域連携センター長の改選について
2/7	臨時	30	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科第1部、生活科学科一般入試合否判定について 2 生活科学科専任教員（食物栄養学専攻助教）公募（第1次選考）について 3 専任教員の昇任について
2/14	臨時	30	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 生活科学科専任教員（食物栄養学専攻助教）公募（第2次選考）について 2 退学願について 3 2019年度開設講座表及び時間割について 4 非常勤講師の採用について
2/22	臨時	31	2	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科第1部、生活科学科大学入試センター利用選抜試験合否判定について 2 地域連携センター地域連携事業規程について 3 法経科専任教員の公募について 4 諸規定の改定について
2/28	臨時	29	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成30年度卒業判定について 2 平成30年度栄養士免許取得要件の判定について 3 平成30年度教育職員免許取得要件の判定について 4 退学願について ※ 教授会終了後、研究倫理委員会と競争的資金等不正防止委員会が合同で、全教員を対象に研修会を実施
3/11	臨時	30	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成31年度法経科第2部（一般・社会人選抜）及びセンター試験利用（Ⅱ期）選抜入学試験合否判定について 2 非常勤講師の採用について 3 2019年度時間割の変更について 4 学則の改正について
3/26	臨時	27	6	<ul style="list-style-type: none"> 1 学則の改正について 2 諸規定の改正について 3 2019年度運営方針について 4 退学願について 5 2019年度キャリア支援方針について 6 非常勤講師の採用について 7 非常勤講師の資格変更（昇任）について 8 2019年度時間割の変更について 9 入試制度改革について 10 教員評価について 11 名誉教授の承認について 12 教員資格審査委員会委員の改選について 13 その他

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：立石 芳夫
I 研究活動			
1 研究課題：地方制度、地方自治制度			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：行政学（食栄、生活、法Ⅰ、昼、後期、4）、行政学（法Ⅱ、夜、前期、4）、地方政治論（法Ⅰ、昼、前期、4）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、編入学・卒論指導など		
教育上の工夫	「行政学」（昼）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。		
	「行政学」（夜）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。		
	「地方政治論」日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。テキストについてもできるだけ平易なものを選んでる。		
	「演習」受講生の学力を考慮して、より基礎的な学習計画を心掛けている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本科学者会議、東海自治体問題研究所			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	日本科学者会議幹事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
地方分権改革の到達点を踏まえつつ、地方自治制度の現状と課題を考察していくことを意識している。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動		
1 研究課題：19世紀イギリス・ロマン派の詩		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：「英語Ⅰ」（基礎、昼2クラス、通年、2）、「英語Ⅰ」（基礎、夜1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、昼1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、夜1クラス、通年、2）、「キャリア形成セミナー」（共通、昼1クラス、前期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	ソフトテニス部顧問、就活サークル顧問	
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入学を希望する学生に、学習方法や面接練習などの指導を個別に行った。 TOEICや英検受験予定学生に、学習方法などの指導を個別に行った。	
教育上の工夫	(英語講読・昼) 全体的に真面目で私語もなく、指名した際の授業準備も良く出来ていた。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせて6割未満で、担当したクラスの中では最も低かった。学籍番号順に指名しているため、発表が近づくより丁寧に自主学習を行う傾向がみられた。課題の提出率は高かった。テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度と開きが出てしまった点を反省している。今後はより慎重に年間計画を立てたい。後期は学生部での仕事が多くなり、学習内容の質問や相談などを学生部で聞くことが何度かあった。できるだけ研究室で対応するよう努めたい。	
	(英語講読・夜間) 全体に非常に真面目で、指名した際の授業準備も良く出来ていた。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせて6割を少し上回る程度だった。課題の提出率は高かった。テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と大きく開きが出てしまった点を反省している。年間の学習計画をより慎重に今後は検討したい。後期は学生部での仕事が多くなり、学習内容の質問や相談を学生部で聞くことが何度かあった。できるだけ研究室で対応するよう努めたい。	
	(英語Ⅰ・昼) 例年、1コマ目の授業は後期になると遅刻する学生が多くなりがちで気になっていたが、今年度はほとんどいなかった。私語もなく真面目なクラスだった。「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせて7割近くあり、指名した際の授業準備は良く出来ていた。使用テキストは、章によって内容の読みやすさにばらつきがあり、テキストの難易度の感じ方が気になっていたが、特に指摘はなかった。テキストの進み具合が遅くなったことを反省している。	
	(英語Ⅰ・夜間) 出席率は高く、授業中に私語もなく、真面目なクラスで、「自主的な学習」については、「積極的にいった」と「少しいった」を合わせると8割近い学生が自主的に学習を行っている。課題の提出率も高かった。使用したテキストは章によって読みやすさにはばらつきがあり、また学生のこれまでの英語学習歴にも差異があるため、テキストの難易度の感じ方が気になっていたが、特に「教材」についての評価には表れていなかった。テキストの進み具合が遅くなったことを反省している。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	津市図書館協議会委員（2018年6月30日まで）、三重県情報公開審査会委員（2019年3月31日まで）	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師	放送大学非常勤講師	
3 一言アピール		
小学生の頃、石井桃子訳の『くまのプーさん』を通してイギリスが大好きになったことが、その後の英文学研究の原点です。母語以外の言語で作品を読み解く楽しさと一緒に味わえることが理想です。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：楠本 孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチ、外国人法制、精神障害者の犯罪の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「大規模災害時に日本人被災者と外国人被災者が協働して避難所を運営するための基礎的条件について」地研年報23号（2018・9）		
その他			
学会等報告			
共同研究	助成研究：2018年度地域問題研究所研究員「ヘイトスピーチ解消法の下での各自治体の取組みについて」		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法Ⅰ、昼、前期、4）、刑法（法Ⅱ、夜、前期、4）、刑事政策（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	囲碁将棋部顧問、文學部顧問		
学内教育活動 (その他)	法経科第1部及び第2部のゼミ生を引率して静岡刑務所見学（2018年9月）		
教育上の工夫	刑法（法Ⅰ）は、講義期間内に予定した項目を講義しきれない。時間を増やせない以上は、一項目にかける時間数を削るほかないが、それでは味気のない講義になってしまうおそれがある。教材を工夫して細部の説明を省く方法を考えている。		
	刑法（法Ⅱ）は、少人数のため講義はしやすいが、学生の理解を高めるために、前回講義の復習から入ることになっているが、そのため進路は遅くなり、やはり講義期間内に予定した項目を講義しきれない。1部と同様、教材を工夫して細部の説明を省く方法を考えている。		
	刑事政策（法Ⅰ）は、予定の講義項目をほぼ講義できたが、死刑や少年法は学生の関心が高い問題なので、学生との意見交換の時間を増やしたい。		
	演習は、法学基礎演習で基礎学力を身につけたゼミ生に、自ら設定したテーマについて研究し、その成果をゼミ論文（15,000字）にまとめることを求めた。全員がゼミ論を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。		
	社会科学演習は、基礎演習を経ていない2部学生が対象になるので、指導が難しいが、少人数であるので丁寧な指導ができる。一部のゼミ生と同じように、ゼミ論文の作成を求め、全員が論文を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。		
	法学基礎演習は、山口厚の「刑法入門」（岩波新書）をテキストにして、これをゼミ生が分担して精読し、内容の検討を全員で行うことで、基礎学力を身につけると同時に、プレゼンテーションの能力や集団討議の能力の獲得を目指し、成果を得た。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市青少年問題協議会委員、津市人権施策審議会委員		
学外講演会講師等	出前講義「外国人との共生について」（2019年1月、飯野高校）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
排除型社会から包摂型社会への移行、非寛容社会から寛容社会への移行はどのようにすれば可能かについて考えています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「金融論」（法Ⅰ、昼、後期、4単位）、「金融論」（法Ⅱ、夜、前期、4単位）、「国際経済論」（法Ⅰ、昼、前期、2単位）、「国際経済論」（法Ⅱ、夜、後期、2単位）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4単位）、「社会科学演習」（法Ⅱ、夜、通年、4単位）、「農林体験セミナー」（共通、昼、集中、2単位）、「食と観光実践」（共通、昼、集中、2単位）、「次世代産業実践」（共通、昼、集中、2単位）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	短大生協理事、演劇鑑賞同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、学外演習（日銀・東証見学）、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	<p>法Ⅰ「金融論」（後期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅰ「国際経済論」（前期）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅰ「演習」（通年）：金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学に行くことにしており、前期はそれに向けた準備として日本銀行の機能や役割について学ぶようにしている。また、後期は卒論指導（小論文コンクールで代替可）とともに、学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミを行っている。</p> <p>法Ⅱ「金融論」（前期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅱ「国際経済論」（後期集中講義）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅱ「社会科学演習」（通年）：社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期は学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミ指導をしている。卒論指導（夏の小論文コンクールで代替可）や学園祭への参加も積極的に取り組んでいる。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	津ウサロン、地域連携事業における企画・運営・司会等、高等教育コンソーシアムみえ企画運営委員及び地域貢献部会委員		
学外審議会委員等	三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	日本科学者会議三重支部幹事、津市演劇鑑賞会幹事		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
図書館長になり研究に割ける時間がほとんどなくなりました。大学運営や地域貢献活動で新たな挑戦をするのは大変ではありますが、楽しみもあり、やりがいを感じています。学生への教育指導だけは手を抜かないよう頑張りたいと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：藤枝 律子
I 研究活動		
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加		
2 研究活動実績		
著書	『コンメンタール行政法1行政手続法・行政不服審査法[第3版]』共著（日本評論社、2018年9月）	
論文		
その他		
学会等報告	日中行政不服審査法比較研究会報告「日本行政不服審査法の審理モデル」2018年3月25日	
共同研究		
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：「行政法」（法Ⅰ、昼、前期、4）、「行政法」（法Ⅱ、夜、前期、4）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）、「法学入門」（法Ⅰ、昼、前期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	ウォーキング同好会顧問	
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー(金曜日16:10~17:40)、学外演習(裁判傍聴)、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導	
教育上の工夫	「行政法Ⅰ部」学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最新のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。	
	「行政法Ⅱ部」判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。	
	「演習」それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。	
	「社会科学演習」前期の前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。	
	「法学入門」3回担当。2回は、行政事件訴訟法について、最終回は国家補償について。時間が限られている中で、できるだけ、具体的な事件と判例を挙げて説明することによって、行政救済について理解を深めることができるように努力しました。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津市建築審査会委員、三重県収用委員会委員、三重県福祉サービス運営適正化委員会委員、津市いじめ問題対策連絡協議会委員、三重県行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員 等	
学外講演会講師等	桑名市役所職員研修講師「行政法」担当(2018年9月)	
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美（2017年5月末より休職）
I 研究活動 育児休暇中のため活動なし			
1 研究課題：会計制度と法人税制（課税の公平から見た会計の役割に関する研究）、内部留保の経営分析、不公正ファイナンスと財務諸表監査			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動 育児休暇中のため活動なし			
1 担当科目：			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫			
III 学会等及び社会における主な活動 育児休暇中のため活動なし			
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 制度（会計、法人税、監査）の社会的意味を考察し、その制度下での社会的実態を明らかにします。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：大畑 智史
I 研究活動		
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「所得課税と消費課税：ICT化の意義」（三重短期大学法経学会『三重法経』151号、2019年）	
その他	「租税分野におけるマイナンバー制度」（国際文化政策研究教育学会ワーキングペーパー、2018年）	
学会等報告	「消費税増税の課題」（2018年度三重短期大学法経学会研究報告、2019年）	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：経済学入門（法Ⅰ、昼、前期、2）、地方財政論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地方財政論（法Ⅱ、夜、前期、2）、財政学（法Ⅰ、昼、後期、4）、財政学（法Ⅱ、夜、後期、4）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	1年クラス対象（対象 1部・2部）：主として、進路と授業履修との面談、2年演習履修生対象（対象 1部・2部）：主として、進路と授業履修との面談、2年演習学外学習（対象 1部・2部、自由参加）：関宿方面（6月実施）・四日市市方面（12月実施）、2年演習（対象 1部・2部）：卒業論文集作成関係（校正会実施）	
教育上の工夫	<p>「経済学入門」（昼）＜経商コース教員分担制＞ 経済学経営学分野の基礎的事項を理解してもらうため、経商コース教員が授業を分担している。この際、アクティブラーニングを取り入れ、受講生に積極的に学ぶ姿勢を身に付けてもらうようにしている。また、受講生がその分野の専門科目の内容を深く考察できるよう、複数回のレポート添削を実施している。</p> <p>「地方財政論」（昼） できるだけ各論点（地方債、会計、他）の重要な点を、関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的に、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組をしている。</p> <p>「地方財政論」（夜） 基本的な工夫は「地方財政論」（昼）と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（地方財政論（昼）でも紹介）。</p> <p>「財政学」（昼） 基本的工夫は、「地方財政論」（昼）と同様である。 ＜財政学独自の工夫＞ ・中間テストを入れ、受講生の側、自身の側で、授業の効果を確かめる。 ・ミクロ経済学やマクロ経済学といった視点からの説明箇所が地方財政論の場合よりも多いが、そうした点が出てくるたびにできるだけその内容を簡潔に説明する。</p> <p>「財政学」（夜） 基本的な工夫は「財政学」（昼）と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（財政学（昼）でも紹介）。</p> <p>「演習」（昼） 卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、などの工夫を行っている。</p> <p>「社会科学演習」（夜） 基本的な工夫は「演習」（昼）と同様である。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、日本科学者会議三重支部幹事	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：今本 幸平
I 研究活動			
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	単著「ハイネとバレエ」、『ハイネ遺稿』第11号、2018年5月。		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：独語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、独語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、独語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、 文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、 文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生のクラス担任として学生の指導を行った。 オフィスアワー：金曜1030-1200		
教育上の工夫	独語Ⅰ（昼）：初めて学ぶ英語以外の外国語ということを考えて、前期は進度よりもドイツ語に慣れることを第一に考えている。そのためにはまず読み方（発音）理解することが必要という考えから、発音練習を多く取り入れている。また、英語や日本語との比較なども説明に適宜取り入れ、言語全般にも関心が持てるよう努めている。		
	独語Ⅰ（夜）：昼に比べて受講者数が少ないため、個々の学生にも目が行き届きやすかった。初めて学ぶ英語以外の外国語ということを考えて、前期は進度よりもドイツ語に慣れることを第一に考えている。そのためにはまず読み方（発音）に慣れることが必要という考えから、発音練習を多く取り入れている。また、英語や日本語との比較なども適宜取り入れて、言語全般にも関心が持てるよう努めている。		
	独語Ⅱ：新たな文法事項をスムーズに学べるように、独語Ⅰで学んだ内容を随時復習するようにしている。 独語Ⅰで学んだドイツ語を、せっかくなのでもう少しやりたい、という動機で履修する学生のために、検定試験の対策問題などにも取り組み、学習意欲を刺激するよう努めている。		
	文学Ⅰ（昼）：普段あまり読書をしないという学生でも、読んでみようという気持ちが少しでも起きるように、ポイントとなる場面の解説を関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。		
	文学Ⅰ（夜）：昼間の授業に比べると、授業で取り上げた作品を自主的に読むなどする熱心な学生が多かった印象であった。読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。		
	文学Ⅱ（昼）：ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。		
	文学Ⅱ（夜）：ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ遺稿の会、 Internationale Wilhelm-Müller-Gesellschaft（国際ヴィルヘルム・ミュラー協会）			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ（2018年9月）：「音楽を通してみるドイツ語の詩—ゲーテの『魔王』を中心に」		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：法経科	職名：准教授	氏名：田添 篤史
I 研究活動		
1 研究課題：社会システムの再生産条件について		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「投下労働量の増加が意味するもの」三重法経151号 (2019年3月15日)	
その他		
学会等報告	経済理論学会第66回大会「Vertical Integrationとマルクス派最適成長モデル」2018年10月13日 基礎経済科学研究所春季研究交流集会「日本経済の『断片化』—利益率の多様化に注目して」2019年3月16日	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）、経済原論（法Ⅰ・昼・前期・4）、経済原論（法Ⅱ・夜・前期・4）、経済学史（法Ⅰ・昼・後期・2）、統計学（法Ⅱ・夜・後期・2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	経商コースのⅠ部およびⅡ部のクラス担任を受け持った。 ゼミ生に対して編入指導を個別に行った。	
教育上の工夫	経済原論（昼・前期）：参考書をベースとして要点のみを抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。理解が難しいと思われる箇所については、繰り返し説明するようにした。講義の最初に前回の講義の要点を改めて説明し、記憶の定着を図った。	
	経済原論（夜・前期）：昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、それに加えて昼の講義の反省点を活かし、夜の講義において説明方法、板書の改善を行った。	
	経済学史（昼・後期）：経済学史で取り扱う学者たちの理論では、経済学の要点が現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに理解しやすい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかめることを意図した説明を行った。また前期の経済原論はマイクロ・マクロ経済学が中心であるが、経済学史においてそれ以外の考え方も紹介し、経済学に対する認識の豊富化を図った。	
	統計学（夜・後期）：統計学は確率理論の理解が必須であるため難解な部分が多い。そのため厳密な理解というよりは統計学の考え方を直感的に把握するということを重視した説明を行った。また毎回の講義の最後には小テストを課し、実際に問題を解かせることで記憶の定着を促した。	
	演習（昼・通年）：前期では日本経済に関するテキストを、後期では社会選択理論に関するテキストを輪読する形で進めた。1章ごとに担当者を決め、担当者が発表した後、それについての他のゼミ生からのコメント、討論という形で進め、自分の意見をしっかりとした根拠をベースとして表現する力を身に着けるという点を重視した。	
	社会科学演習（夜・通年）：使用したテキストおよびゼミの進め方は昼の演習と同一である。こちらのほうでも自分の意見を根拠づけて表現する力を身に着けるということを重視して進めた。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所		
2 社会活動実績		
地域連携事業	オープンカレッジ「日本経済はなぜ『停滞』したのか」 出前講座「経済学とは何か」（三重県立久居高等学校）	
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動	基礎経済科学研究所編集局員	
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
ある社会システムが安定的に再生産されるのはどのような場合か、あるいはそれが崩壊するのはどのような場合かということを中心に研究しています。 教育では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：鷲尾 和紀
I 研究活動		
1 研究課題：マーケティング生活価値の創造		
2 研究活動実績		
著書		
論文	高速道路PA・SAの進化と地域貢献の有効性—マーケティングの視点から— 高千穂論叢(高千穂大学高千穂学会) 第53巻第3号 2018年12月	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：マーケティング論（法Ⅰ、昼、前期、4）、マーケティング論（法Ⅱ、夜、後期、4）、日本経済論（法Ⅰ、昼、後期、2）、日本経済論（法Ⅱ、夜、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	軽音楽部顧問	
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィシアワー、学外演習（現場実習）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導、資格取得指導	
教育上の工夫	<p>マーケティング論(法Ⅰ昼)では、単に専門用語を覚えるだけでなく、身の回りから心がけることで将来へ向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。レポートや試験ではないが、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めようとした。</p> <p>学生からの授業感想文の一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な時間を過ごせた。90分という時間が楽しかった。あつという間だった。 ・授業を振りかえってみると知らないところでこんなに覚えることが多い。 ・プリントで整理してあったのでわかりやすかった。テスト勉強が楽しかった。 ・知識を得るだけでなく、人生の教訓を教わったような気がする。脳を使い知的な刺激を受ける。 <p>マーケティング論(法Ⅱ夜)では、(法Ⅰ昼)と同様な授業展開を行った。</p> <p>授業スタイルが確立されたことから、前期より工夫をこなしアンケート集計の評価が高まった。</p> <p>日本経済論(法Ⅰ昼)では、日本経済の時事を中心に各テーマを取り上げ、今日の諸問題から未来への提言を合わせ、授業展開を行った。レポートや試験ではないが、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めようとした。</p> <p>学生からの授業感想文の一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じていることや考えてたことを文章に書きだすことによって、レポート等を書く上で役立っていた。 ・頭の中で整理されていくのでこれからも何か考えていることがあったときや新聞を読んだ後とかにも書きおこしてみよう。 ・テストのための勉強から自分の生きていくうえで必要な知識を得て使っていく勉強を学んだ。学んだことを活かし観点を変え物事を見るようになった。 <p>日本経済論(法Ⅱ夜)では、日本経済の時事を中心に各テーマを取り上げ、今日の諸問題から未来への提言を合わせ、授業展開を行った。レポートや試験ではないが、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めようとした。</p> <p>演習では、論文を通じて現地調査を行い、論文作成への足掛かりとした。大所帯のなかグループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p> <p>社会科学演習では、レポート作成、発表を数回行い、論文作成の足掛かりとした。大所帯のなかグループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本商業学会、パーソナルファイナンス学会、日本広告学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重県津市一身田商工会メンバー ブランド協議会委員	
学外審議会委員等	伊藤達雄研究室都市環境ゼミナール、MUIネットワーク研究会	
学外講演会講師等	出前講座「10代から学ぶパーソナルファイナンス～ライフプランを考えよう～」2019年2月 KTCおおぞら高等学院 四日市キャンパス	
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
マーケティングを通じて、生きる力を身につけ社会に対応できる研究活動と学生指導を行っていきたい。時代の最先端に踏み込んだ、未来への新しい発見を追求していきたく考えている。これからも精進してまいります。		

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：法経科	職名：講師	氏名：川上 生馬
I 研究活動		
1 研究課題：消滅時効制度、時効期間の合意による変更、権利行使期間		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「新フランス時効法における時効期間の合意による変更—フランス法の現状と問題点の分析」法と政治69巻2号II 1057-1099頁 (2018年8月)	
その他	報告要旨「時効期間の合意による変更—フランス時効法からみる消滅時効制度の現代的意義」比較法研究80巻295-298頁 (2018年)	
学会等報告	大阪市立大学民法研究会「時効期間の合意による変更—フランス時効法からみる消滅時効制度の現代的意義」(2018年5月12日)、法理論研究会「時効期間の合意による変更—フランス時効法からみる消滅時効制度の現代的意義」(2018年5月19日)、比較法学会第81回総会大陸法部会「時効期間の合意による変更—フランス時効法からみる消滅時効制度の現代的意義」(2018年6月2日)、大阪市立大学民法研究会「貸金の支払督促による時効の中断効が当事者間で締結された保証契約に基づく保証債務履行請求権に及ぶか」(2018年8月11日)、関西民事法若手研究会「貸金の支払督促による時効の中断効が当事者間で締結された保証契約に基づく保証債務履行請求権に及ぶか」(2018年8月25日)、関西民事法若手研究会「時効期間の合意による変更」(2018年11月3日)	
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：民法Ⅰ(法Ⅰ、昼、前期、4)、民法Ⅰ(法Ⅱ、夜、前期、4)、民法Ⅱ(法Ⅰ、昼、後期、2)、法学基礎演習(法Ⅰ、昼、後期、2)、演習(法Ⅰ、昼、通年、4)、社会科学演習(法Ⅱ、夜、通年、4)		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導	
教育上の工夫	<p>「民法Ⅰ」(昼)：非常に範囲が広く、理解することが大変な科目であることから、毎回要点をまとめたレジュメを配布し講義を行った。具体例を多く取り上げ、いかなる場合に民法での解決が可能となるのかを図も用いながら解説した。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。論述問題の解答方法等についても指導を行った。</p> <p>「民法Ⅰ」(夜)：非常に範囲が広く、理解することが大変な科目であることから、毎回要点をまとめたレジュメを配布し講義を行った。具体例を多く取り上げ、いかなる場合に民法での解決が可能となるのかを図も用いながら解説した。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。論述問題の解答方法等についても指導を行った。</p> <p>「民法Ⅱ」(昼)：非常に複雑な問題を理解する必要のある科目であることから、毎回要点をまとめたレジュメを配布し講義を行った。具体例を多く取り上げ、誰の誰に対する権利が問題となっているのか、複雑な事例を紐解きながら理解してもらえよう講義を行った。また、知識の定着を目的として練習問題を数十問行い、さらに、解答時間中に教室内を巡回し、適宜質問に対応した。論述問題の解答方法等についても指導を行った。</p> <p>「法学基礎演習」(昼)：3人1組に分け、各班が興味のある民法に関連する判例について報告を行ってもらった。資料収集、教科書要約、判例評釈の理解など事前の指導に加え、報告の仕方や報告内容に関する質問を行うことで、リサーチ力、プレゼン力の向上を図った。1月に2000字程度の中間報告書を提出してもらい、添削した上で返信した。</p> <p>「演習」(昼)：卒論テーマについて毎回2名ずつ報告を行ってもらった。自身の興味関心だけでテーマを決めるのではなく、法的な課題と結びつけるということを中心に行ってもらった。報告の際には、他のゼミ生にも報告内容が伝わるようにはどのような伝え方をすればいいのかを中心に指導を行った。最終的に15,000字～20,000字程度の卒論の執筆を行ってもらった。</p> <p>「社会科学演習」(夜)：卒論テーマについて毎回2名ずつ報告を行ってもらった。自身の興味関心だけでテーマを決めるのではなく、法的な課題と結びつけるということを中心に行ってもらった。報告の際には、他のゼミ生にも報告内容が伝わるようにはどのような伝え方をすればいいのかを中心に指導を行った。最終的に15,000字～20,000字程度の卒論の執筆を行ってもらった。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、日仏法学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「相続の仕組みについて」(2018年10月6日)	
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師	日本福祉大学経済学部「民法」(後期、4)、中央大学法学部通信教育課程大阪支部学修会インストラクター「民法」(1回)	
3 一言アピール	大幅な改正がなされた消滅時効制度が今後、取引社会においてどのように機能していくのか、フランス法との比較を行い、論文を執筆していきたいと考えています。また、相続についても重要な改正がなされたため、こちらについては講演活動等でその内容を広く市民の方に知ってもらえるよう励んで参ります。	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鎌塚 有貴（2018年10月採用）
I 研究活動			
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	明治大学公法研究会（2019年1月，明治大学）		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：日本国憲法（法Ⅰ、通年、4）、日本国憲法Ⅱ（生活、後期、2）、演習（法Ⅰ、通年、法学基礎演習（法Ⅰ、後期、2）、日本国憲法（法Ⅱ、後期、4）、憲法訴訟論（法Ⅰ、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、編入学試験対策・指導		
教育上の工夫	日本国憲法（法Ⅰ，生活） 予習復習に不便のないようシラバス通りに進行することを心掛けた。		
	日本国憲法（法Ⅱ） 人権・統治両分野に関連性があることを理解してもらえよう意識した。時事問題も取り扱うようにした。		
	憲法訴訟論 自衛隊基地問題についてはDVD視聴により理解を深めた。		
	法学基礎演習 早期から卒業論文作成に取り掛かることで各自の問題意識を明確にするよう指導した。		
	演習 憲法未履修者が多かったため、多くの文献を読むことと中立的な視点を持つことを目標に指導した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
多くの学生が主権者として選挙に関心を持ち投票に行くために、まず日本国憲法をより身近に感じてもらうことを自らの目標としています。			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：学長・教授	氏名：東福寺 一郎
I 研究活動			
1 研究課題：男女共同参画とジェンダーの心理学、加齢に伴う記憶の変化、生涯学習			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「発達と学習」(共通・教職、昼、後期、2)、「心理学概論」(生活、昼、前期、2)、「心理学基礎実験」(生活、昼、前期、2)、「福祉心理基礎演習」(生活、昼、後期、2)、「福祉心理演習」(生活、昼、通年、4)、「栄養教育実習、事前・事後の指導」(食栄、昼、通年、2)、「生活科学概論」(生活、前期、1コマ)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バドミントン部顧問		
学内教育活動 (その他)	<p>「福祉心理演習」において、毎年、フレンデみえが行うウェルカムセミナーを利用し、男女共同参画について学習している。</p> <p>「福祉心理演習」では、卒業論文を作成し、USBメモリおよびプリントアウトして保存している。</p> <p>オフィスアワーを設定し、学生からの相談を受けている。オフィスアワー以外でも特段の事情がない限り対応している。</p> <p>2012年10月より、学生へのメッセージとして学長室だよりを毎月執筆し、ホームページに掲載している。</p>		
教育上の工夫	<p>発達と学習 (全学科、後期)</p> <p>テキストは使用せず、毎回資料を配布する形で進めた。主に前半を発達、後半を学習の内容について講義した。発達においては、生涯発達の考え方や研究法に始まり、乳児期から老年期に至るまでの発達過程を講じた。また、毎回、その時間に取り上げた発達段階にかかわるDVDを視聴し、講義のまとめとした。このDVD視聴は、毎年学生に好評である。一方、学習にかかわる領域についてはパワーポイントを用い、簡単なデモ実験を取り入れるなど、学生の興味を引く工夫を行った。毎回、聴講券で出欠をとったが、その際聴講券の裏に、その日の講義に対する感想や意見を求め(強制ではない)、それらの概要を次回の配布プリントに記載した。その際、質問とみなされる内容については、簡潔に回答を行った。</p> <p>心理学概論 (生活科学専攻、前期)</p> <p>テキストは指定せず、毎回資料を配布する形で進めた。また、毎回、次の講義内容にかかわる課題を示し、それをA4の用紙1枚(印刷したものを配布)にまとめ、当日提出させた。この提出物については、次の時間に簡単なコメントをつけて返却している。授業においては、パワーポイントを用い、また簡単な実験やテストを行ったり、ビデオを見るなど、興味が持続できるような工夫を行った。</p> <p>福祉心理基礎演習 (生活科学専攻、後期)</p> <p>テキストとして「自分でできる心理学」(大野木他著、ナカニシヤ出版)を用いた。簡単にできる心理学の実験やテストを行い、心理学を身近に知ってもらうことを狙いとしたものである。これとは別に、毎回話題提供者を決め、各自が関心を持つテーマについてレジュメを用意したうえで、口頭発表を行い、それに基づく意見交換の場を設けた。これらの内容については、毎回レポートを提出させ、教員からのコメントをつけて返却することを繰り返した。</p> <p>福祉心理演習 (生活科学専攻、通年)</p> <p>教材として、認知心理学をテーマとしたDVDを用いた。視聴したのちに、そこで取り上げられていた実験について、班ごとに実験を計画し、実際に行うことを繰り返した。また、班に分かれての討論も実施した。それとは別に、基礎演習に引き続き、毎回話題提供者によるプレゼンとそれについての討論も行った。後期には、これらの内容に加え、各自の卒論テーマに基づき、発表を行ったり、データ収集のための調査などを実施した。卒論は1月の基礎演習履修者を交えての発表会を開催し、完成後はUSBにまとめて提出させ、卒業論文集を作成した。なお、7月にはフレンデみえにおいてウェルカムセミナーを受講し、男女共同参画についての学習も行った。</p> <p>栄養教育実習、事前・事後の指導 (食物栄養学専攻、通年)</p> <p>平成30年度に栄養教育実習を行った学生は3名であった。栄養指導にかかわる専門的内容は阿部が担当し、授業方法については阿部と東福寺が担当した。実習は後期に入ってからであったが、夏休み前に授業練習を行い、その経験を基に夏休み中に教材研究を積めるように配慮した。こうした指導は専ら阿部が担当した。教育実習中の巡回指導も阿部が担当した。実習終了後には反省会を実施した。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

	<p>生活科学概論（生活科学科、前期1コマ）</p> <p>男女共同参画をテーマとする授業を実施した。パワーポイントを用い、クイズや様々なデータを示しながら、男女共同参画とは何か、なぜそれを進める必要があるのかをわかりやすく講じたつもりである。最後には小テストを実施し、そのうちの1問を各自の男女共同参画に対する考えを尋ねる内容とすることで、講義の理解度を知らぬ一助とした。</p>
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	津北ロータリークラブにおいて出前講座「公立短期大学という存在」、津西高校「人権総合学習」において出前講座「男女共存社会のすすめ」、KTCおおぞら高等学院四日市キャンパスにおいて出前講座「心理学ミニ実験～見ることの不思議～」
学外審議会委員等	津市男女共同参画審議会会長、桑名市男女共同参画審議会会長、いなべ市男女共同参画推進委員会委員長、亀山市男女共同参画審議会副会長、内閣府男女共同参画推進連携会議委員、日本高等教育評価機構短期大学判定委員会委員、第76回国民体育大会三重県準備委員会委員、亀山市生涯学習審議会委員、三重県生涯学習センター運営審議会委員、三重県共同募金会配分委員会委員長、新しいみえの文化振興方針評価・推進会議委員、三重県立図書館協議会委員長
学外講演会講師等	全国公立短期大学協会事務職員中央研修会講師「短期大学制度と公立短期大学の現状」、全国公立短期大学協会秋季総会鼎談講師「公立短期大学のこれからを考える」
その他の社会活動	全国公立短期大学協会理事・会長（5月から副会長）、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問会議顧問
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター（面接授業担当、科目名：心理学実験2）
3 一言アピール	
<p>近年は男女共同参画やジェンダーを中心とした研究ならびに社会活動を続けていますが、学長であるため、研究活動に割く時間は限定されてきました。2018年度をもって定年退職しますが、今後も、これまでの経験を地域社会に還元していきたいと考えています。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動		
1 研究課題：「人間中心主義批判」の批判的検討、生活科学についての原論的理解の深化		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他	「三重短期大学における環境系科目群の内容と位置づけについて」『紀要』三重短期大学生活科学研究会、67号 3月	
	「獣害問題を考える」『津市民文化』12号、6月	
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）、生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）環境倫理学（生活、昼、後期、2、隔年）、環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 (その他)	一年次クラス担任、科学英語講談会	
工夫	<p>環境論（共通、夜、前期、2）：自然科学的テーマに内容を限定</p> <p>生活経営（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）：生命再生産活動の概念を丁寧に説明し、市場経済の原理的なレベルでの理解を合わせて、現代における生活者の基本課題を理論的に解説している。</p> <p>環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。</p> <p>環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。</p> <p>地域政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。</p> <p>環境倫理学（生活、昼、後期、2、隔年）：主たる理論潮流と現実課題をセットで論じ、理解を深める。</p> <p>生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）：生活に直接かかわる環境問題（公害、消費、廃棄物）の解説。</p> <p>環境共生論（生活、昼、前期、2、隔年）：毎回視聴覚教材を使用し、環境問題のリアルな理解を図っている。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）：視聴覚教材を利用してリアルな認識を得たうえで、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、同家政学原論部会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
特になし		
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理）		

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書	『いま地域医療で何が起きているのか』旬報社、2018年4月 (横山壽一氏らと共著)		
論文	「保険者による医療保障の課題」『中小商工業研究』No.137、2018年		
	「国保法44条一部負担金減免に関する札幌高裁判決の意義」『中小商工業研究』No.139、2019年		
	「自治体による医療保障および市民の生活実態への政策的対応」『資金と社会保障』No.1721・1722、2019年		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	「地域の医療保障と皆保険体制の動向について」2018年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論Ⅱ（法Ⅰ、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ボランティアサークル部顧問		
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（月曜日3限）、学外演習（自治体、医療機関、福祉施設、労働市場等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえるよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての実習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえるよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3） 実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。
	福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。
III 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療福祉政策学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	出前講座「知っておきたい労働・社会保障のこと」三重県立白子高校、2018年11月 出前講座「身近にある社会保障のこと」三重県立朝明高校、2018年7月 津市白山地域元取地区自治会・公民館・結の会「元取あつまろう会・福祉活動交流会」2018年4月
学外審議会委員等	三重県社会福祉審議会委員、三重県国民健康保険運営協議会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、三重県行政不服審査会委員、松阪市地域包括ケア推進会議会長、松阪市民病院のあり方検討委員会委員、桑名市障害者自立支援協議会会長、津市NPOサポートセンター理事、日本医療福祉政策学会副会長、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所理事
学外講演会講師等	社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回程度引き受けている。
その他の社会活動	医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿
他大学非常勤講師	名城大学経済学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、三重県立看護大学「保健福祉行政論」、四日市大学経済学部「社会福祉学」、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科「医療経済特論」
3 一言アピール	
<p>地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々で行っています。また、社会保障制度をわかりやすく話すとともに、多様性ある社会をどうつくるか、をテーマに教育・研究活動を行っています。</p> <p>（ 研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関するワークショップや計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修 ）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	木下誠一、藤枝秀樹、今井正次「三重県の公共複合施設における共用空間の構成 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その1」、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、2018.9		
	藤枝秀樹、木下誠一、今井正次「設計意図と主体的運営からみた共用空間の計画課題 公共複合施設における共用空間のあり方に関する研究 その2」、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、2018.9		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目 居住計画論（生活・昼・前期・2）、居住福祉論（生活・昼・後期・2）、住生活論（生活・昼・後期・2）、住生活設計1（生活・昼・後期・2）、住生活設計2（生活・昼・前期・2）、居住環境特別演習（生活・昼・通年・4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	女子バスケットボール部顧問		
学内教育活動 (その他)	1年次クラス担任、オフィスマナー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活・昼・前期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、毎回宿題として課しているレポートについて、数人の学生に発表してもらい意見交換を行うなどの機会を設けたい。</p> <p>居住福祉論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。また、学生の資格取得への関心と意欲を高めるため、資格試験に関連した内容を演習問題などに一部取り入れている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は毎回実施する小テストに質問も書いてもらい、次回の授業で回答するなどの対応を考えたい。</p> <p>住生活論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は、2～3回に一度のペースで課しているレポートの提出時に質問も書いてもらい、返却時に回答を記載し、レポートに書かれた内容を授業で紹介することも考えたい。</p> <p>住生活設計1（生活・昼・後期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。昨年度に引き続き外部講師（建築家）の指導を3回導入したが、学生にも好影響を与えているようなので、さらに効果的な方法を検討していきたい。</p> <p>住生活設計2（生活・昼・前期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。また、学生同士が互いに意見を交わしながら創作活動に取り組める環境を大切にしている。しかし、授業に関係のない私語で騒がしくなることがあるため、慎むよう指導していきたい。</p> <p>居住環境特別演習（生活・昼・通年・4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させている。また、学生のモチベーションを高めるため、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	㈱賃貸メイト「コンセプト部屋デザイン」担当		
学外審議会委員等	三重県開発審査会委員、三重県公共事業評価審査委員会委員、老人保健福祉施設整備事業事前審査会、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、鈴鹿市景観審議会審査部会員、鈴鹿市景観アドバイザー、松阪市景観アドバイザー、鳥羽市都市計画審議会委員、日本建築学会東海支部常議員、三重県建設業協会三重県建築賞審査委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	高田短期大学「生活の理解Ⅲ」非常勤講師		
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。			
（研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：山田 徳広
I 研究活動			
1 研究課題：プロテアーゼを用いた牛乳と豆乳のゲル化食品に関する研究、食品成分の血糖上昇抑制効果に関する研究、雑豆類の加工に関する研究、津市並びに三重県の食材を用いた加工食品の開発に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	<p>種々の日本産ショウガ(Zingiber officinale)のプロテアーゼ活性の評価に関する研究 山田徳広, 津村和伸, 苔庵泰志, 梅谷かおり, 清水純, 栗田修 日本農芸化学会2018年度大会, 2018年3月, 名古屋</p> <p>ショウガ(Zingiber officinale)抽出物を用いた豆乳ゲルの作成方法の検討 山田徳広, 苔庵泰志, 津村和伸 日本食品科学工学会第65回大会, 2018年8月, 仙台</p> <p>ショウガ(Zingiber officinale)抽出物を用いた豆乳ゲルの作成方法の検討(第2報) 山田徳広, 苔庵泰志, 津村和伸 日本調理科学会平成30年度大会, 2018年8月, 西宮</p>		
共同研究 助成研究	<p>三重県工業研究所との共同研究</p> <p>平成30年度豆類振興事業助成金 課題名：「ひよこまめ豆腐（ビルマ豆腐）の特性と加工方法の開発」 公益財団法人 日本豆類協会</p> <p>公益財団法人 岡三加藤文化振興財団研究助成金 課題名：「モロヘイヤの血糖上昇抑制作用」 公益財団法人 岡三加藤文化振興財団</p> <p>地域問題研究所研究助成</p>		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養学（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、食生活（食栄、昼、後期、2）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	編入希望者の指導、卒業生の管理栄養士国家試験受験指導		
教育上の工夫	<p>生化学：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。後期の栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。</p> <p>生化学実験：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。また、初めの実験授業であることから、実験の心得、実験器具の基本的書き方などをじっくり教えている。</p> <p>栄養学：前期の生化学とリンクさせながら、栄養素の代謝について教授している。前期の生化学において栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。</p> <p>栄養学実験：栄養素の特徴、消化のされかた、代謝のされかたなどを、実験を通して体験させている。実験をするだけでなく、実験データの信頼性の評価の仕方まで踏み込んでいる。</p> <p>食生活論：食に関する社会問題について、DVDも使いながら講義している。DVDを見た後は必ずA4レポート用紙1枚分のレポートを書かせ、食の問題に関して意見をまとめられる様、訓練している。今後も、食の問題が社会環境</p> <p>ライフステージ栄養学：4年生課程では通年30回で実施する授業であるが、半期15回しか時間が無いので、パワーポイントを使って効率的に授業をしている。特に、これから学生自身にとって重要となる、妊娠期と子供の栄養についてじっくりと教えている。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養食糧学会、日本農芸化学会、日本食生活学会、日本食品科学工学会、日本食品保蔵科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>513ペーカリーとのコラボ企画指導</p> <p>地域連携カフェ『Café HONOBUNO』参加</p> <p>2018年6月26日 津市村主公民館にて「魚を食べよう」というテーマで出前講座を実施</p>		
学外審議会委員等	Sport Sciences for Health誌の査読		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「栄養学」		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

3 一言アピール

超高齢社会を迎えた我が国では、高齢者の栄養障害と嚥下障害が問題となっている。たんぱく質分解酵素であるプロテアーゼは、牛乳中または豆乳中のたんぱく質を分解することによってゲルを形成する。このことを利用して高齢者の嗜好に合うと共に、栄養価が高く、嚥下しやすい食品の開発に取り組んでいます。

現在、日本では人口減少が問題となっているが、全世界的には人口爆発による食糧不足が問題となっている。その中でも、たんぱく質の供給は、食物アレルギーとの関係から多様な供給源が求められている。そこで新たなたんぱく質源として雑豆類に注目して加工食品の開発に取り組んでいます。

現在、糖尿病の増加が問題となっているが、同じ成分組成でも調理や加工の方法を工夫する事によって血糖の急激な上昇を抑える事ができる。そこで、血糖の急激な上昇を抑える調理や加工の方法を研究しています。

津市や三重県には様々な農産物がある。津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品を開発しています。

（研究テーマの応用例：高齢者用ゲル化食品の開発、血糖値が上がらないスイーツ開発、血糖値が上がりにくい食事方法の提案、津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品の開発）

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：橋本 博行
I 研究活動			
1 研究課題： 給食施設等での食物アレルギー対応食への食物アレルギーの混入防止に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Kyohei Kiyota, Junko Sakata, Taro Satsuki-Murakami, Masato Yoshimitsu, Kazuhiko Akutsu, Masami Ki, Hiroyuki Hashimoto, Keiji Kajimura and Tetsuo Yamano. Evaluation of cleaning methods for residual orange extract on different cookware materials using ELISA with profilin allergen indicator. Journal of Food Process Engineering. 41 (2), e12652 (2018)		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号 18K02266 給食施設での粉体食物アレルギーの飛散特性の解析と混入防止対策 2018-2020年度		
II 教育活動			
1 担当科目： 食品学 (食栄、昼、前期、1)、食品学実験 (食栄、昼、前期、1)、食品衛生学Ⅰ (食栄、昼、前期、1)、食品衛生学Ⅱ (食栄、昼、後期、1)、食品学衛生学実験 (食栄、昼、後期、1)、食品の機能 (食栄、昼、後期、2)、特別演習 (食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任 (食栄1, 2年次生)、食栄学生就職指導 (食栄2年生)、食栄学生編入学指導 (食栄2年生)		
教育上の工夫	食品学：当日講義する教科書の章の内容と、栄養士として教育すべき項目をまとめたプリントと、その内容を理解するために必要な化学等の基礎知識を開示したプリントを配布し、当日の教科書のポイント解説→基礎知識→当日の重要事項の順に開設した。暗記が必要なカタカナ用語は、語呂合わせを活用しながら、授業内で暗記してもらった。毎回、授業アンケートを実施し、学生からの質問については、次の講義で解説した。		
	食品衛生学Ⅰ：当日、講義する教科書の章の内容と、栄養士として教育すべき項目をまとめたプリントと、当日の講義内容に関連した実際に発生した食中毒事件の概要をまとめたプリントを配布した。実際に起こった食中毒事件を解説することにより学生の興味を引くとともに理解が深まったと考えている。		
	食品学実験：化学実験の安全管理の方法や実験の手法を模擬実験で練習を繰り返した後、実験を行うようにした。食品学の講義で学ぶ主要な項目について、実験を通じて理解を深めてもらうようにした。		
	食品衛生学Ⅱ：食品衛生学Ⅰでの学習を基礎として、食品衛生に関わる内容全般について解説した。給食提供時の安全管理で重要な、大量調理施設衛生管理マニュアルについて、具体的な食中毒防止手法が身につくように解説した。		
	食品衛生学実験：食品衛生学ⅠとⅡで学習した、食品衛生学の知識を深めるために、その内容を実験で経験してもらった。実験内容は、保健所等で行われている微生物実験と理化学実験を行った。実験で使用する食品試料は、リスクが想定される試料を選定し、リスクが把握できるように心がけた。		
	食品の機能：食品学で学習する、色、味、匂いなどの嗜好性成分や、生体調節機能を持つ食品成分について解説した。特に食品の摂取と関連する疾病の成り立ちについてもわかりやすく解説し、食品成分の疾病予防効果が理解できるように配慮した。		
	特別演習：食物アレルギーの意図しない混入防止の基礎的な知見を得る実験で、今年度は、てんぷら等に使用するパターの洗浄時のスポンジたわしへの付着性と、洗浄後のスポンジたわしの再使用時のボウル汚染の実験を行った。学生には再現性のあるデータを得るための実験上の注意点を、各自に考えてもらいながら実験を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本アレルギー学会、日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本食品衛生学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「食品中に含まれる体に良い成分、良くない成分」2018年11月3日 高大連携授業「官能評価法-紅茶の甘さあて、ミネラルウォーターの嗜好調査-」三重県立相可高校、2018年9月6日 出前講座「いろいろな食中毒と予防方法」老人短期入所 栗真みかんの里 2018年11月14日 JA三重中央ベジマルファクトリーとのコラボ商品開発		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>学校給食での食物アレルギー対応食の提供時の事故防止に関する研究を進めています。これまで、給食用食器の選定時の食物アレルギーの付着性比較や小麦粉のふるい時の飛散性に関する研究を行ってきました。食物アレルギー対応食の提供時のいろいろな混入リスクを明らかにしていき、食物アレルギー対応の事故防止に貢献したいと考えています。</p> <p>(研究テーマの応用例：食物アレルギー対応食の提供までの事故防止マニュアル)</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：准教授	氏名：阿部 稚里
I 研究活動		
1 研究課題：栄養教育の有効性に関する研究、ビタミンE代謝に関する研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他	文部科学省委託 つながる食育事業報告書 三重県教育委員会発行. p94-107執筆分担	
学会等報告	阿部 稚里、飯田 津喜美、磯部 由香、乾 陽子、萩原 範子、奥野 元子、久保 さつき、小長谷 紀子、駒田 聡子、鷺見 裕子、成田 美代、平島 円、水谷 令子「三重県の実地料理 主菜の特徴-5食文化圏および季節による分類-」日本調理科学会平成30年度大会、(兵庫)、2018年8月	
	阿部 稚里「壮年期の男女における食意識、食知識、栄養素摂取量および食品群摂取量の比較」第65回 日本栄養改善学会学術総会(新潟)、2018年9月	
共同研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 ビタミンE代謝に関する研究 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員	
助成研究	文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) 課題番号26870801「食事バランスガイドと簡易型自記式食事履歴問票を用いた食教育の注意点の把握」2014-2018年度	
II 教育活動		
1 担当科目：栄養教育論Ⅰ(食栄、昼、前期、2)、栄養教育論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、栄養教育論Ⅱ(食栄、昼、後期、2)、栄養教育論実習Ⅱ(食栄、昼、後期、1)、教職実践演習(食栄、昼、後期、2)、校外実習事前事後指導(食栄、昼、通年、1)、給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、事前・事後の指導(食栄、昼、通年、1)、栄養教育実習(食栄、昼、通年、1)、特別演習(食栄、昼、通年、4)		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動(その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)。オフィスワーカーを実施し、個別相談に応じた。	
教育上の工夫	<p>栄養教育論Ⅰは、栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートでは、学生の努力がみられた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅰでは、個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習もほとんどの学生が行い、自ら学ぼうとする意欲もみられた。</p> <p>栄養教育論Ⅱでは、対象者に対応した栄養教育プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントできる能力を身に付けることを目標に、行動科学やカウンセリングなどの理論を応用して身体的、精神的、社会的状況、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と方法について、主にプリントを用いながら講義した。たくさんの学生から質問が出ており、教科内容や栄養士について興味を深めたのが何えた。今後も学生の意見を踏まえ、しっかり講義内容に反映させていきたい。</p> <p>栄養教育論実習Ⅱでは、栄養教育教室企画のプレゼンテーションと発表を演習した。自主的に演習する内容が多く、この2年間の集大成になったという意見が多かった。また、履修者同士でリハーサルを行い、評価したり教え合ったりする姿も見え、コミュニケーションを取る大切さも身につけられたように思う。今後も栄養士や栄養教育にもっと興味を持てるよう、声掛けをしていきたい。</p> <p>教職実践演習では、教職課程の最終的なまとめを行った。より良い教師像をめざして様々なテーマでディスカッションを繰り返して、思考を深めたのが何えた。</p> <p>校外実習事前事後指導では、栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅱは、学外で栄養士実習を行う教科である。巡回指導をし、担当栄養士や学生との連携を深め、より充実した実習になるように努めた。</p> <p>事前・事後の指導では、教育実習に必要な知識やマナー、研究授業に積極的に取り組めるよう指導を行った。研究授業内容は各自異なるため個別に対応したが、その意見は全員にフィードバックさせた。</p> <p>栄養教育実習は、栄養教育論の教育実習を行う教科である。巡回指導を行い、担当栄養教育論や学生との連携を深め、より充実した教育実習になるように努めた。</p> <p>特別演習(食栄、昼、通年、4)では、食事調査を実践して卒業論文にまとめた。また、編入学指導を行い、2名が編入した。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本農芸化学会、日本ビタミン学会、ビタミンB 研究会、ゴマ科学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	ベジマルファクトリーレシピ開発へのアドバイザー 「高齢者が気を付けたい食生活」（講演）、南立誠地区社会福祉協議会歴史探訪事業、同事業参加者、2018年10月 「妊娠中に気を付けたい食生活」（講演）、三重短期大学オープンカレッジ、一般市民、2018年8月 「高齢者が気を付けたい食生活」（講演）、みえアカデミックセミナー、一般市民、2018年8月
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与、日本栄養改善学会評議員、平成30年度三重県つながる食育推進事業推進委員
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール	
<p>栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究	2018年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、社会福祉基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。また、津市内及び大阪市においてフィールドワークを行った。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2） 映像や資料を積極的に利用し、社会福祉に関わる問題について具体的なイメージをもちながら、概念を理解してもらえるように努めています。また、講義の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2） 歴史を知るためにはまず、「社会福祉」の概要をつかまなければならないが、1年生の受講生も一定数いるため、歴史を扱う前に社会福祉の概要についての講義も行うなど工夫をしています。また、視覚的に理解できるよう、資料に工夫をしたり、その時代に起こった世界的なできごと（中学高校で習ったもの）も取り上げながら話を進めることで、少しでも物事が繋がればと考えています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 初めて学外で実習を行うにあたって、実習目標に基づいた内容になっているか、学生の精神的状況の把握、施設の実習担当者との意見交換及び学生への実地指導などを行った。円滑に実習を進めて行くために、実際に実習巡回で施設を訪問し、学生だけではなく実習担当者とのコミュニケーションに力を注ぐことで学生及び施設の状況把握に努めています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3） 実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4） ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在するが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導についても行いました。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4） 社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨むためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的に行うようにしました。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会、日本社会福祉士会、京都社会福祉士会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>出前講座 恩中寺 「社会福祉のしくみと地域にある福祉サービス」 2018年12月9日 三重県立四日市西高校 「社会福祉のしくみ」 2018年12月10日 津うサロンへの参加（学生も引率）2018年7月31日</p>		
学外審議会委員等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、四日市市指定管理者選定委員会委員、津市の公共交通を考える市民研究会 代表、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>単著「自立支援型」地域ケア会議実施の課題－地域で暮らすための支援のあり方－『地研年報』(23) 57-64, 2018年9月.</p> <p>単著「自立支援型」地域ケア会議における助言内容の特徴－KH Coderによる伊勢市「生活支援会議」アドバイザー意見の分析－『最新社会福祉学研究』(14) 93-100, 2019年3月.</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「三重県内の社会福祉法人が実施する「地域における公益的な取組」の実態調査」		
II 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	<p>医療福祉論 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術総論 ソーシャルワークを理解できるようにグループワークなどを取り入れた。また、福祉問題に関心が向くように新聞記事レポートを実施した。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ 少人数であるため、グループワークを多用した、また、放送番組センター収録番組を視聴覚教材として用いた、それらの教材に対しての評価が結果に反映されていると考える。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>福祉心理基礎演習 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>出前講座 テーマ「人を援助する「私」を知る」 2018年12月12日 主催 特別支援学校 聖母の家学園 専攻科 会場 四日市 特別支援学校 聖母の家学園 2018年12月26日 主催 津中部北地域包括支援センター 会場 津市 津地区医師会館</p>		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、多気郡 福祉有償運送運営協議会委員 2017年10月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～		
学外講演会講師等	公開セミナー登壇「映像アーカイブ活用と新たな展開2018」、2018年11月17日、主催：公益財団法人放送番組センター。		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、愛知大学地域政策学部「社会福祉政策論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		
3 一言アピール			
<p>福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。 （研究テーマの応用例：ケアプラン（居宅介護支援計画）の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域ケア会議の円滑な運営に関する研究）</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動			
1 研究課題：地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>立地適正化計画における拠点配置と誘導区域にみる都市構造に関する研究 ー地方都市で策定された立地適正化計画を対象としてー 三重短期大学紀要 第67号 2019年3月</p> <p>地方都市を共創する地方公立大学のあり方に関する考察 ー市立三重短期大学のカリキュラム改革検討を事例としてー 三重短期大学紀要 第67号 2019年3月</p> <p>地方都市における持続可能な集約型都市構造（コンパクトシティ）の形成に向けて ー津市を事例として検討を試みた考察ー 三重短期大学地域問題研究所 地研年報 第23号 2018年9月</p>		
その他	<p>第58回地域問題研究交流会報告（要旨） 地方都市における持続可能な「地方都市における持続可能な“コンパクト+ネットワークシティ”の形成に向けて ー多核ネットワーク型都市を形づくる『地域拠点』に着目してー」 三重短期大学地域問題研究所 地研通信 第133・134合併号 2019.2.28</p> <p>地域を共創する大学 ～地域に必要とされ、地域に貢献し、地域で活躍する人材を育て上げる大学へ～ 三重短期大学図書館だより 第46号 2018.12.1</p>		
学会等報告	地方都市を対象とした立地適正化計画における拠点配置にみる都市構造の考察 日本建築学会大会（東北）都市計画部門 パネルディスカッション 『拠点論 ～計画された拠点と現実～』 2018.9.4		
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「地方都市再生に向けたコンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する研究（その3）」 ＝ 拠点論 ～集約型都市構造に向けたプロセスプランニング～ ＝		
II 教育活動			
1 担当科目：「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）、「住環境計画」（生活、昼、前期、2）、「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「自治体行政特論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）、「地域環境学」（生活、昼、後期、2）、「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）、「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市 一身田寺内町の館及び寺内町の視察v.1、津市 津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察v.2、三重県立総合博物館MIEMUの視察v.3、日本最古の木造天守閣を有する犬山城と歴史的街並みが残る城下町の視察v.4の実施		
学内教育活動 （その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：水曜日13:30～15:00、後期：水曜日14:00～15:30、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究及び発表会の指導及び「2018年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集。なお、今年度の日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」への出展作品は、都市計画ゼミの卒業設計から「伊賀と名張をつなぐ森の駅 Forest station connecting Iga and Nabari」が選出。このほか、津市中心市街活性化に向けた都市計画ゼミの卒業設計として下記（地域連携事業欄記載）の3作品をまとめ地域連携センターへ提出。		
教育上の工夫	<p>第1部前期「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.43であり、昨年度の総合評価5.68を若干下回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポートの返却」の評価項目が6.00（昨年度5.80）と高い。次に「教材」の評価項目が5.43（昨年度5.68）と高く、「知的刺激」が5.39（昨年度5.84）、「教員の熱意」が5.35（昨年度5.79）と高い。設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたことや講義を行いつつ進めたことなど評価が高いと思われる。次いで「わかりやすさ」5.30（昨年度5.74）、「板書・話し方」5.30（昨年度5.84）、「学生の質問や意見」5.30（昨年度5.74）の評価項目が高くなっている。項目別にみても全て昨年度より評価が下がっている。今年度の回答者数は23名と昨年度の19名を上回っていたが昨年度に比べ低評価となった。グループ課題を主としており、今年は履修申告書が多くなったことから、6グループの指導を行うことになったことが原因かもしれない。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、当授業は1単位1時限であることから、履修申告者がこれ以上増えてきた場合は、時間コマ数を増やすなどを今後の検討課題としたい。</p> <p>第1部前期「住環境計画」（生活、昼、前期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.04であり、昨年度の総合評価4.78より上回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.56（昨年度5.53）と高い。次いで、「板書・話し方」と「良好な学習環境」が共に5.13（昨年度4.83、4.78）、「教員の熱意」5.11（昨年度4.88）、「わかりやすさ」5.08（昨年度4.78）、「学生の質問や意見」5.04（昨年度4.78）、「教材」5.00（昨年度4.90）と続いている。項目別にみると全ての項目において、昨年度を上回っている。講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。授業評価アンケートのコメントを見ると「毎回、考えさせられることが多く、理解が深まったと思う。」などの意見もあるが、「ポイントをなる単語をもっと完結に表してほしい。」との意見もあり、講義に対する多様な考え方が見受けられる。なお、「プリントはカラーの方が絶対いい。」との意見があり、今年度の途中からデモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p> <p>第1部前期「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.10であり、昨年度の総合評価5.40を若干下回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.77（昨年度5.70）と高い。次いで、「教材」の評価項目が5.33（昨年度5.60）、「教員の熱意」が5.32（昨年度5.54）、「学生の質問や意見」が5.30（昨年度5.43）、「知的刺激」が5.15（昨年度5.24）と高くなっている。また、「板書・話し方」が5.07（昨年度5.58）、「良好な学習環境」の評価が5.05（昨年度5.11）という結果となった。項目別にみても全体の評価は若干下がっているが概ね5.00を超えている。今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。授業評価アンケートのコメントを見ると「編入試験の勉強の参考になりました。」などの意見もあるが、「スライドを読むだけの気がしました。」との意見もあり、多様な学生像が見受けられる。なお、「大量の資料をいただきましたが、あらためて見直したいと思います。途中からカラー印刷になり非常に見やすかったです。初めて知る内容が結構ありました。地域の活性化に役立てたいです。ありがとうございました。」との意見があることから、今年度の途中からデモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

	<p>第1部前期「自治体行政特論」（食・生活・法Ⅰ、前期、2）</p> <p>今年度から担当したため講義のめり昨年度との比較はできないが「総合評価」は5.25であった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「教材」の評価項目が5.38、次いで、「板書・話し方」5.36、「教員の熱意」が5.34と高い。「知的刺激」が5.28、「良好な学習環境」が5.20、「学生の興味を引く工夫」が5.15、「学生の質問や意見」が5.14と続いている。今年度の履修申告者は78名であり、事前に聞いていた昨年度の履修者20～30名程度から大幅に多くなった。なお、この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義であることから、履修申告者の増加は好ましいことと考える。授業評価アンケートのコメントを見ると「よかった。でも書くのが多くて話があまり聞けなかった。」との意見があり、来年度は履修ノートの講義の概要を記す文字数を工夫したい。また、「津市の概要がわかった。地域政策論も履修しているの、理解は深まった。資料はカラー印刷に限ります。」との意見があることから、今年度の途中からデモで使用したカラー印刷機の恒常的な設置を事務局にお願いしたいところである。</p>
	<p>第1部後期「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）</p> <p>昨年度に比べ、「総合評価」は5.29であり昨年度の総合評価5.73より低い値となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「教員の熱意」の評価項目が5.52（昨年度5.67）と高く、次いで「教材」の評価項目5.43（昨年度5.73）、「レポートの返却」が、5.33（昨年度5.89）である。設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたこと、中間提出や最終提出の講義を行ったことから評価が高いと考えられる。「学生の興味を引く工夫」と「知的刺激」が共に5.24（昨年度ともに5.60）となっている。「良好な学習環境の評価」が4.86（昨年度5.47）と低いのは、グループ作業による設計を行っており、グループ内で活発な議論が行われたことから、他グループの声などが聞こえるためと思われる。</p> <p>昨年度より総じて評価は低くなっていることから、低くなった項目に注意しながら来年度の講義に臨みたい。なお、今年度の受講生は25名と昨年度の15名から大幅に多くなったことから、一人当たりにかかれる時間が減少した。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別の指導を心掛けていきたいが、受講生数が増えると評価が下がる傾向にある。2年生後期の建築士を目指した授業であることから、2年生前期講義のまちづくり設計Ⅰ履修者に限るなどの適正な受講生数も課題としたい。</p>
	<p>第1部後期「地域環境学」（生活、昼、後期、2）</p> <p>昨年度より高い評価となっており、「総合評価」は5.51であり昨年度の総合評価5.43より高くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.89（昨年度5.70）、「学生の質問や意見」が5.74（昨年度5.50）と高い。これは毎回の小課題の質問に答えるほか、中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで「知的刺激」の評価項目が5.59（昨年度5.23）、「教員の熱意」が5.57（昨年度5.47）と高い。一方、「教材」の評価が5.40（昨年度5.50）、「良好な学習環境」が5.37（昨年度5.20）とやや低い。良好な学習環境に関しては、今年度は小教室に61名と昨年度53名に比べ多い学生が受講していることからかもしれない。</p> <p>小教室に受講生が増えた割には高評価の結果となった。今後もパワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をし、最新の情報などを取り入れ、知的興味を持てるようにしたい。前期、教材がカラー印刷になった時は高評であったことから、カラー印刷機の導入が期待される。</p>
	<p>第1部後期「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）</p> <p>昨年度に比べ全体的に評価が高くなっており、「総合評価」は5.47であり昨年度の総合評価4.83より大幅に高くなった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.67（昨年度5.57）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「わかりやすさ」と「知的刺激」の評価項目が共に5.63（昨年度4.93、4.51）と高くなった。「わかりやすさ」と「知的刺激が高い」ことはよいことだと考える。次いで「板書・話し方」が5.60（昨年度4.88）、「教材」5.53（昨年度5.00）、「学生の質問や意見」、「教員の熱意」が共に5.50（昨年度5.05、4.88）となっている。</p> <p>昨年度より全体的に高い評価は、履修学生が昨年度57名から、41名と減ったことも原因と考えられる。ちなみに一昨年度の履修学生40名の時の総合評価は5.55と高い。小教室における適正な履修数もあるのかもしれない。今後も、新しい情報を加えるとともにわかりやすさに努め、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしたい。履修学生が増えた時の評価が課題となる。</p>
	<p>第1部通年「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）</p> <p>都市計画ゼミのねらいは、まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションでできることが大切であると考えている。授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、三重県立総合博物館MIEMU、及び、日本最古の木造天守閣を有する犬山城と歴史的街並みが残る城下町の視察の視察を行った。</p> <p>第1部前期「生活科学概論」（基礎・昼・前期・2）Iコマ</p> <p>生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっており、その内一講義を担当している。食生活栄養学専攻、生活福祉・心理コース、居住環境コースの学生全員に興味を持ってもらうため、「住民参加とコミュニティ」というソフトなテーマで講義を行っている。パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用し、最後に感想や意見等をA5版用紙に記載させるなど、興味を持てるような工夫をしている。</p>
<p>III 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会</p>	<p>一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会</p>
<p>2 社会活動実績</p>	
<p>地域連携事業</p>	<p>2018年度 三重短期大学地域連携講座・地域問題研究所交流集会 合同開催（2018.10.27） 地方都市における持続可能な「コンパクト+ネットワークシティ」の形成に向けて 一多核ネットワーク型都市を形作る『地域拠点』に着目して～</p> <p>2018年度 津市商店街にぎわい創出活動支援業務事業 中心市街地活性化 市民対話カフェ津うサロン「三重短サロン」参加、津市中心市街活性化に向けた都市計画ゼミ卒業設計、「松葉リノベーション計画～海の見える百貨店～」、「津新町テラス～一之坪公園サードプレイス計画～」、「津市中心市街地活性化計画『まちなかランウェイ』」3作品提出</p> <p>株式会社賃貸メイトと三重短期大学居住環境コースとの産学連携企画における「賃貸住宅のコンセプトルーム」デザイン協力支援 2018.5.17～2018.10.18</p> <p>一身田寺内町 ぽっとガイド会 養成講座 講演 2018.09.14</p> <p>三重短期大学出前講座：亀山市議会 議員研修会 『都市計画とまちづくり』～持続可能なコンパクトシティに向けて～ 講演 2018.04.23</p>

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

学外審議会委員等	一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市再生手法小委員会委員（2015.4～2019.3）、一般社団法人建築学会 東海支部 三重支所運営委員（2015.8～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2016.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2016.4～2019.3）、三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）、津市福祉有償運送運営協議会委員（会長）（2014～）、四日市市開発審議会委員（都市計画・建築）（2016～）
学外講演会講師等	一身田寺内町ほっとガイド会 養成講座 講演 2018.09.14（地域連携事業欄重複記載） 三重短期大学出前講座：亀山市議会 議員研修会 『都市計画とまちづくり』～持続可能なコンパクトシティに向けて～ 講演 2018.04.23（地域連携事業欄重複記載）
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、広域都市計画、都市農村計画、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加のまちづくり、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。 （研究テーマの応用例：持続可能なコンパクト・プラス・ネットワークシティ、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
I 研究活動		
1 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他	平成29年度三重短期大学 共同研究報告書「平成28年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」（2018.3）	
学会等報告		
共同研究	共同研究「特定健康診査・特定保健指導の解析」 駒田亜衣	
助成研究	2018年度地域問題研究所研究員「三重県と和歌山県の南部に伝わる郷土料理の一考察～「馴れずし」を中心に特徴とその背景～」	
	2018年度三重短期大学政策研究・研修「糖尿病性腎症の重症化予防のための指導ツールの作成」	
II 教育活動		
1 担当科目：調理学（食栄、昼、前期、2）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、給食計画実務論（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	茶道部顧問	
学内教育活動（その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）	
教育上の工夫	<p>「調理学」では、食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。</p> <p>「調理学実習Ⅱ」では、前期の実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。</p> <p>「給食計画実務論」では、大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。</p> <p>「給食計画実務論実習Ⅰ」では、同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。</p> <p>「特別演習」では、公衆栄養学的内容で実施した。子どもの身体状況と食事摂取状況との関連の解析や、特定健診結果の解析、三重県の食の状況調査解析などを行い、将来的に栄養士として働くうえで知っておくべき内容を研究テーマとした。データのまとめ方や集計手法など、パソコン操作についても積極的に指導を行った。</p> <p>「校外実習事前事後指導」では、栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	<p>「地域連携連携カフェHONOBUNO」の運営（献立計画・給食運営）</p> <p>「世界の料理講座（調理実習）」の開催 津市国際交流協会</p>	
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員、津地域栄養管理ネットワーク研究会委員	
学外講演会講師等	<p>平成30年度津市国民健康保険特定保健指導研修会講師（津市中央保健センター）「特定保健指導実施による翌年の健康状態の改善について～結果につなげる効果的な保健指導～」（2018年8月）</p> <p>平成30年度給食従事者研修会講師（尾鷲保健所）「三重県の食の状況～県民健康・栄養調査の結果から～」（2018年8月）</p> <p>津市ヘルスマイトリーダー研修会講師（津市食生活改善推進協議会）「おいしく食べる工夫」（2018年9月）</p> <p>津市保健所職員研修会講師（津保育所施設長連絡協議会、安濃保健センター）「栄養に関する基礎知識」（2019年1月）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

その他の社会活動	出前講座「三重県の食状況について」2018年10月 出前講座「メタボ健診のすすめと津市の健康課題」2019年2月 津市第3次健康づくり計画強化分野の啓発にかかる技術支援（津産業・スポーツセンター サオリーナ） (2019年2月)
他大学非常勤講師	鈴鹿短期大学非常勤講師「公衆栄養学」担当
<p>3 一言アピール</p> <p>食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査(メタボ健診)や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り、性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。</p> <p>（研究テーマの応用例：有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
I 研究活動		
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学		
2 研究活動実績		
著書		
論文	Zhongxi Cai, Koichiro Ryu, and Shigeki Matsubara: Statistical Analysis of Missing Translation in Simultaneous Interpretation Using A Large-scale Bilingual Speech Corpus, Proceedings of the Eleventh International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2018), pp. 4282-4288, May (2018).	
その他	笠浩一朗, 松原茂樹：「同時通訳における作業記憶の負荷と訳出との関係」『通訳翻訳研究』18号, pp.147-158 (2018) 蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「同時通訳における語の欠落に影響を及ぼす要因の分析」『通訳翻訳研究』18号, pp.133-146 (2018) 蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「講演の同時通訳における文の訳出難易度の推定」信学技報, vol. 118, no. 516, TL2018-57, pp. 37-41, 2019年3月	
学会等報告	蔡仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹：「同時通訳における訳出遅延の短縮に有用な訳出方略の獲得」日本通訳翻訳学会第19回年次大会, 大阪, 2018年9月	
共同研究	科研費 基盤研究 (C) 「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」(代表者) (課題番号: 17K02765)	
助成研究	科研費 基盤研究 (B) 通訳方略の体系化と文構造の逐次解析に基づく講演音声の同時通訳 (分担者)	
II 教育活動		
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ（共通、夜1クラス、前期、1）、情報処理実習Ⅰ（共通、昼2クラス、後期、1）、数理科学（生活、昼、前期、2）、情報と社会（共通、昼、前期、2）、情報と科学（共通、昼、後期、2）、情報と科学（共通、夜、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動（その他）	クラス担任（居住環境コース）、4年制への編入を目指す学生への数学、物理等の個別指導を実施した。	
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ（共通・夜前期・昼2クラス後期・1） 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。学生とのコミュニケーションを密にして、より学生の声を授業に反映させた。</p> <p>数理科学（基礎・昼前期・2） 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的容易な内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。講義期間外には、講義内容に関連した内容の勉強会も2日間開催した。</p> <p>情報と社会（共通：昼前期） 配布する資料をカラーで作成・印刷することで、資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報と科学（共通：昼後期・2、夜後期・2） 受講生の人数が多いため、講義内で理解度を試す小テストやプログラミングの実習などにおいて、細かい指導ができないため、講義での全体説明をよりわかりやすくするように努めた。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究（プロジェクト）に取り組んでおり、2018年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作と子供向けのプログラミング講座の開催などを行った。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	小中学生向けのプログラミング講座の開催（2019年1月）	
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動	Little Coder Mie（市民団体主催の子供向けプログラミング講座）のボランティア参加（2019年3月24日）	
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に開催していく予定です。（2018年度は年1回開催）</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻	職名：助教	氏名：飯田 津喜美
I 研究活動		
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究，ササゲ属マメに関する研究，食文化に関する研究		
2 研究活動実績		
著書	共著 伝え継ぐ日本の家庭料理 「13小麦・いも・豆のおやつ」2018年6月「6魚のおかず いわし・さばなど」2018年9月「10野菜のおかず 秋から冬」2018年12月，「1炊き込み飯・おにぎり」2019年3月，企画・編集（一社）日本調理科学会，農山漁村文化協会	
論文		
その他	小野はるみ，飯田津喜美，若杉悠佑：「三重県フェンシング協会ジュニア選手の食生活および食に対する意識調査と食事バランスの調え方」，スポーツ医・科学研究MIE第26巻，17-22，2019年1月	
学会等報告	阿部雅里，飯田津喜美，磯部由香，乾陽子，鷺見裕子，萩原範子，奥野元子，久保さつき，小長谷紀子，駒田聡子，成田美代，平島円，水谷令子：日本調理科学会平成30年度大会特別企画「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理－主菜の特徴－」ポスター発表，2018年8月，西宮市	
共同研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析）	
助成研究	ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員兼編集副責任者	
II 教育活動		
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ（食栄，昼，前期，1），校外実習事前事後指導（食栄，昼，前期，1），調理学実習Ⅰ（食栄，昼，前期，1），調理学実習Ⅲ（食栄，昼，後期，1），栄養教育論実習Ⅱ（食栄，昼，後期，1）校外実習事前事後指導（食栄，昼，後期，1）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	バレーボール部顧問	
学内教育活動 （その他）	食栄1年次生クラス担任，食栄2年次生クラス担任（就活指導等），オフィスアワー，学生食育サポーター育成・指導	
教育上の工夫	実験実習が滞りなく進行するように担当教員の補佐を務めた。また，学生食育サポーター育成・指導では，学外で実施する子ども料理教室の献立に応じた作業工程をスライド等で説明し，理解しやすいように工夫している。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本生化学会，日本調理科学会，日本蛋白質科学会，日本熱測定学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	出前講座「三重の伝統食文化と家庭料理－シニア世代 健康長寿のための食生活について－」，南立誠地区社会福祉協議会，2018年9月12日，津市 子ども料理体験教室参加，2018年5月13日，8月5日，12月2日，津市 出前講座「健康づくりについて」，恩仲寺講話，2019年3月3日，津市	
学外審議会委員等	三重県体育協会スポーツ医・科学委員会委員，2010年6月～（現在） 平成30年度三重県おさかな料理コンクール審査員，2018年9月24日 日本栄養改善学会評議員，2018年11月～（現在）	
学外講演会講師等	講演会講師「三重県の伝統食文化について」，みえ産学官技術連携研究会第4回産業技術検討会及び第4回食と陶の高付加価値化検討会，三重県工業研究所，2018年12月12日，伊賀市丸柱地区市民センター スポーツ栄養指導教室講師（分担），三重県フェンシング連盟海星中学校・高等学校，2018年10月14日，12月13日	
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事	
他大学非常勤講師	非常勤講師 三重大学，調理学実習Ⅱ（三重創生ファンタジスタ科目，三重県の郷土料理），2018年10月31日 非常勤講師 放送大学面接授業，健康づくりのための食の視点，2019年1月12～13日	
3 一言アピール		
<p>タンパク質は，その構造や機能を調べることでより様々な性質を知ることができます。現在，大阪府立大学との共同研究において，生体内輸送蛋白質であるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し，本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。</p> <p>また，三重県の伝統食材（シロミトリ豆他）を調査し，調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食の継承活動も行っています。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2018年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：杉野 香江
I 研究活動			
1 研究課題：ライフステージにおける生活習慣と骨量の関連について			
2 研究活動実績			
著書			
論文	井上明香利, 杉野侑菜, 杉野香江：若年女性におけるロコモ度テストと身体機能および生活習慣の関連について. 三重短期大学生活科学研究会紀要No. 67 2019. 3		
その他			
学会等報告	杉野香江, 山下剛範, 若杉悠佑, 寺島徹, 加藤尊：中高年女性のロコモティブシンドロームの現状と身体組成および身体機能の関連について, 第65回日本栄養改善学会, 新潟, 2018. 9 加藤尊, 山下剛範, 杉野香江, 若杉悠佑, 近藤妃歌, 寺島徹：スイミングスクールに通う閉経後中高年女性の部位別骨塩量変化—大腿骨近位端部と橈骨遠位端部に着目して, 第73回日本体力医学会, 福井, 2018. 9 森安莉沙, 生川卓弘, 杉野香江：栄養士・管理栄養士養成課程の学生における調理に関する研究—調理技術との関連—, 2018年度三重県栄養士会研究発表, 2018. 3		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1）、臨床栄養学実習（食栄、昼、前期、1）食品学実験（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスマナー		
教育上の工夫	特別演習では、若年者を対象に、骨密度、筋肉量を含む身体測定、体力調査、栄養調査を実施し、身体機能と生活習慣との関連について検討した。各種測定手法の習得をはじめ、データの解析、論文の作成指導、プレゼン指導を通して、実社会で働く上で必要な専門知識と技術の習得に努めた。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本骨粗鬆症学会、日本体力医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	骨の健康を守るために（三重短期大学オープンカレッジ） 2018. 8 513BAKERYと三重短大によるコラボパンの開発 通年 「地域連携カフェHONOBUNO」の補助 2018. 12 「世界の料理講座（調理実習）」の補助 津市国際交流協会 年3回		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 骨や筋肉をはじめとする身体機能の維持は、生涯健康な生活をおくる上で重要です。身体機能の維持に関連する食習慣、生活習慣について、調査、検討しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2018年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：相川 悠貴
I 研究活動			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、体組成が競技力に及ぼす影響超高齢者アスリートの生活習慣、糖代謝異常を予防する食品			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Aikawa Y, Kakutani Y, Agata U, Ezawa I, Omi N. The influence of food restriction on bone in young female rats with voluntary wheel running over 5 weeks. J Phys Fitness Sports Med. 7(5):297-301. 2018		
その他	麻見 直美, 相川 悠貴, 角谷 雄哉, 塚原 典子. 栄養の分野でトピックとなっている論文のレビュー. 日本骨粗鬆症学会雑誌. 4(4): 155-158. 2018.		
学会等報告	Aikawa Y, Takagi Y, Horiba M. The influence of aerobics dance exercise on energy intake, appetite, and mood in young women. 9th Federation of Asia and Oceania Physiological Societies Congress. 2019年3月.		
共同研究	科研費 若手研究「食餌量不足条件下でのジャンプ運動は骨強度を増加させるか？」(代表者) (課題番号: JP18K17843)		
助成研究	筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター(ARIHHP)共同研究 「ジャンプトレーニングと食餌制限の組み合わせは低骨強度を引き起こすのか？」(代表者)		
II 教育活動			
1 担当科目 特別演習(食栄、昼、通年、4)、校外実習事前事後指導助手(食栄、昼、通年、1)、給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、生化学実験(食栄、昼、前期、1)、給食計画実務論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、栄養学実験(食栄、昼、後期、1)、解剖生理学実験(食栄、昼、後期、1)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	陸上競技部顧問、バスケットボール部顧問、硬式テニス部顧問、軟式テニス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	実験が滞りなく進行するよう、講師の実施する実験をサポートした。特別演習では、骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。また、高校部活動栄養サポートを行い、学生の栄養教育の知識獲得に繋がる演習を行った。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「頭と体を良くする運動と栄養」、2018年7月 出前講座「健康のための運動と食事」、対象：坂下地区まちづくり協議会、2018年10月 出前講座「健康のための運動と食事」、対象：津市高齢期運動連絡会、2018年12月 出前講座「健康のための運動と食事」、対象：全国健康保険協会三重支部、2019年3月 地域連携カフェ HONOBUNO 補助 2018年12月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	TBS番組「ビビット」取材協力、2018年5月		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて説明してきます。 (研究テーマの応用例：健康教室の実施)			